

令和2年度

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」

研究開発実施報告書(第2年次)

福井県立鯖江高等学校

鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成

これまでの実践例

- 福井国体時に市民向けに行った鯖江市デジタルパンプフレットの成果発表



- 鯖江市主催の地域活性化プログラムコンテストに東大生等とチームで参加し、最優秀賞を受賞



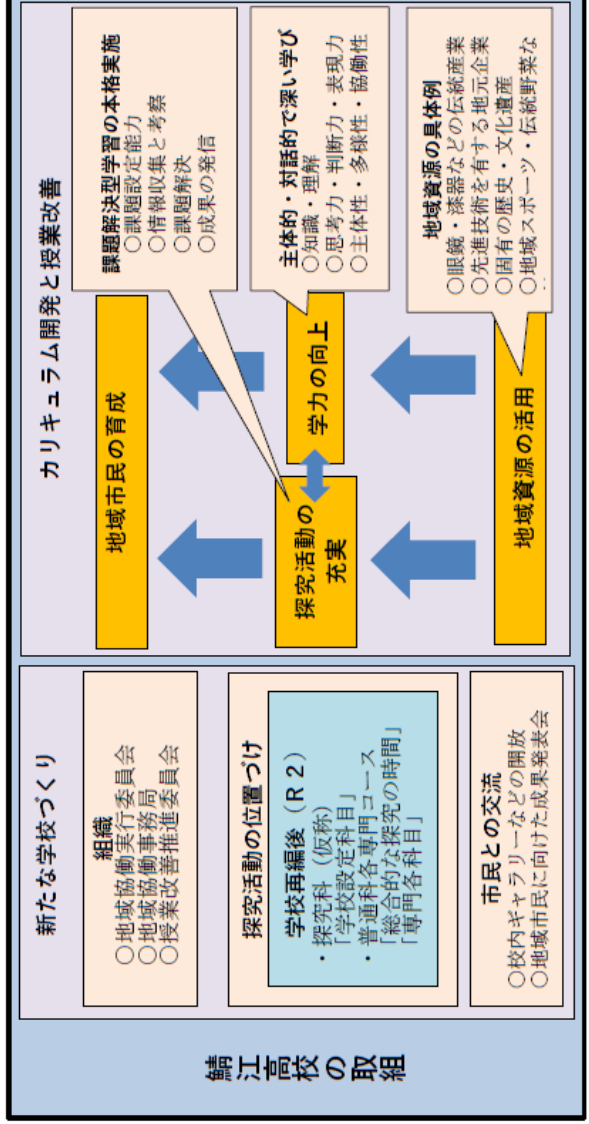
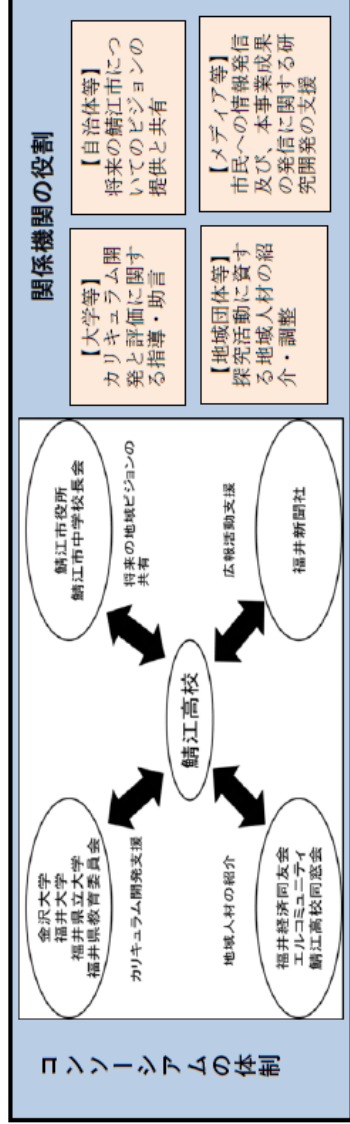
【成果】

- 総合的な学習の時間への探究学習の導入
- 地域の学校観の変化

【課題】

- 地域との連携の組織化
- 地域課題解決型学習の本格導入と実践
- 全校体制のカリキュラム開発と授業改善

地域との協働を柱に、普通科専門コース・探究科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に向けたカリキュラムの開発



成果目標

- ①県内就職希望の生徒 85%以上
- ②県内就職率 100%

地域への愛着とチャレンジ精神をもった、地域の未来を育てる市民を育成

活動の記録



吉川ナス 収穫体験



クッキング部 FBCテレビ出演



生徒国際フォーラム（オンライン）



鯖江市の企業との交流会



福井新聞記者 特別授業



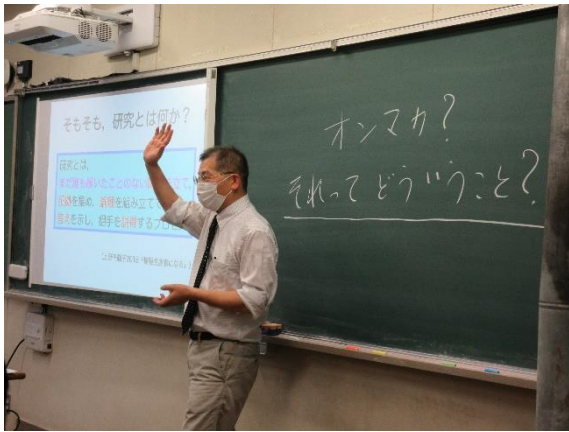
ふるさと福井の未来を一緒に考えましょう



ふるさと先生 特別授業



SDGs 課題研究 中間発表会



仁愛大学教授による課題研究の進め方講座



仁愛大学准教授による研究手法の指導



2030 SDGs カードゲーム体験



前市長と語る会



SDG s 啓発ポスター作り



SDG s 啓発ポスター発表会



オンラインによるインタビュー



新聞記事 読み合い



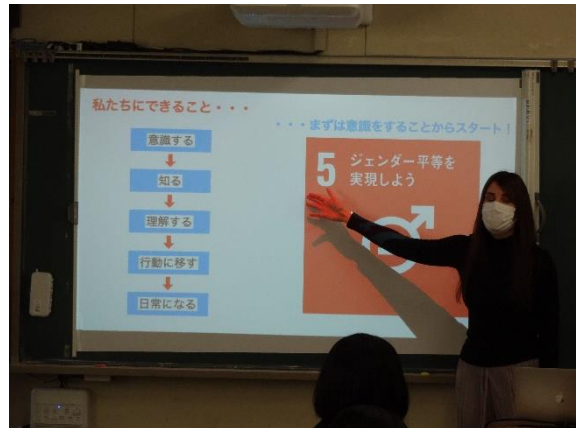
地理 野外実習



音楽 人形浄瑠璃体験



音楽 民族音楽体験



ジェンダー平等 特別授業



教員研修会「鯖江を知ろう」



教員研修会「2030 S D G s 体験」



運営指導委員会



仁愛大学との連携協定締結

目次

・ ビジュアルシート・活動の記録	
・ はじめに（鯖江高等学校長）	1
・ 研究開発の概要	
学校の概要	2
教育方針・努力目標	
在籍生徒一覧・出身中学別一覧・進路状況	
教育課程	2・3年生
1年生	
研究開発報告（文部科学省提出書類「研究開発完了報告書より」）	9
目標設定シート	19
ロジックモデル	20
地域協働事業組織図	20
鯖江高校における探究学習の流れ	21
・ 具体的な取り組み内容	
「総合的な探究の時間」実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）	
1年 探究科「探究」の取り組み	22
1年 普通科「総合的な探究の時間」の取り組み	23
2年 「総合的な探究の時間」の取り組み	24
地域の方々にご協力いただいた活動	
1年探究科「探究」	25
1年普通科「総合的な探究の時間」	26
2年「総合的な探究の時間」	26
各教科・部活動での取り組み	26
その他の校外活動	27
教員研修会	27
打合せ・協議など	28
仁愛大学と鯖江高校との高大連携・高大接続に関する協定書締結	28
運営委員会	
議事録 第1回運営指導委員会	29
第2回運営指導委員会	34
・ 資料	
地域協働ニュース（第1号～第20号）	39
地域協働だより	60

はじめに

本校は令和元年度より、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」の研究指定を受け、研究開発名を「鯖江型高校教育『オール SABAE』の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成」とし、研究に取り組んでおります。地域への愛着とチャレンジ精神をもち、地域の未来を育てていく市民の育成を目標に見据え、地域との協働を柱に、持続可能な地域社会を形成していく高校生を育成する高校教育のカリキュラム開発を進めています。この度、2年目である令和2年度の研究開発の概要および具体的な取り組み内容について、研究開発実施報告書をまとめることができました。本事業にご協力いただきました皆様にお礼申し上げますとともに、ご一読いただき、本校の取り組みに対しましてご意見、ご助言、ご指導をいただけますと幸いです。

本校が所在する福井県鯖江市は、県庁所在地である福井市の南に隣接する人口約7万人の都市で、眼鏡や繊維、漆器などの伝統産業が盛んです。地域活性化に向けた新たな自治体モデルを目指す活気あふれる街でもあり、本校は本事業に取り組む前からも、鯖江市役所と協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、地域教材を活用した授業開発を行ってきました。そして、本事業により、地元鯖江市と高等学校での教育活動の結びつきをさらに強固なものにすることによって、地域とつながりながら高校教育の活性化を図り、将来にわたって鯖江市、そして福井県を支える人材の育成を進めています。

その取り組みの一環として、令和元年6月に鯖江市、鯖江商工会議所との三者連携協定を締結し、文化・教育・学術の振興と発展、人材育成、まちづくり、地域産業振興など、あらゆる分野で連携を図りながら、地域活性化に向けて取り組んでいます。また、令和3年2月には地元の仁愛大学と高大連携・高大接続に関する協定書を締結し、探究活動の指導や授業力向上のための研究に連携して取り組み始めました。

併せて、令和2年度に始まった高等学校再編が、本校と同じ鯖江市内に所在する丹南高校を併合する形で進んでいます。丹南高校で行われていた専門教育（福祉、デザイン、IT）を引き継ぐとともに、本校の特色でもある体操競技、陸上競技（長距離：駅伝）に特化したスポーツを専攻とする2コース（スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコース）を普通科内に設置しました。また、課題解決型の探究的な学びに重きを置く探究科を新たに設置しました。本事業で得られた地域とのつながりをこの専門教育にも活かすとともに、探究科では生徒自身の課題研究による主体的な学びをさらに充実させていきたいと考えています。

最後になりましたが、本事業を推進するにあたり、ご指導、ご支援いただいております文部科学省、福井県教育委員会、鯖江市、鯖江商工会議所、仁愛大学をはじめ、各高等教育機関や行政機関、研究機関、運営指導委員会の皆様など、多くの方々に感謝申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。さらには生徒の今後のますますの成長を願い、ご挨拶といたします。

令和3年4月

福井県立鯖江高等学校長
浅井 裕規

研究開発の概要

学校概要（令和2年度）

学校名	福井県立鯖江高等学校
校長名	福嶋 洋之
所在地	〒916-8510 福井県鯖江市舟津町2丁目5-42
電話番号	0778-51-0001
FAX番号	0778-51-0103
URL	http://www.sabae-h.ed.jp

鯖江高等学校教育方針

1. 真理と正義を愛し、生命と平和を尊ぶ人間を育成する。
2. 勤労を愛し、礼儀と秩序を重んじ、自主的で責任感に富む人間を育成する。
3. 心身ともに健康で、豊かな教養と国際的視野を備えた人間を育成する。

努力目標

1. 学習指導の充実
 - ① 基礎学力の充実を図り、豊かな創造力と的確な判断力の養成に努める。
 - ② 専門教科の研究に励み、生徒の多様な個性に応じた学習指導法の改善に努める。
 - ③ 主体的な学習の習慣を確立し、豊富な知識と国際感覚を身につけた生徒の育成に努める。
2. 生活指導・進路指導の充実
 - ① 秩序と規律を重んじ、品位ある生活態度の育成に努める。
 - ② 保護者との連携を図り、共通理解のもとに生活指導や進路指導の充実に努める。
 - ③ 個々の生徒の能力・適性・希望に応じた計画的な進路指導の推進に努める。
3. 教育環境の整備・美化
 - ① 敬愛と友情を基調とした人間関係を育成して、快適な精神的環境づくりに努める。
 - ② 勤労の尊さと、働くことの喜びを味わうことができる清新な環境づくりに努める。
 - ③ 自然を愛護し、資源を大切にする生活態度の育成に努める。
4. 健康・福祉・安全教育の推進
 - ① 規則的な生活習慣の確立と、心身の健康の保持・増進に努める。
 - ② 命の尊さを知り、思いやりの心のある生徒の育成に努める。
 - ③ 状況を的確に判断し、安全に行動できる生徒の育成に努める。

生徒在籍一覧

学年	学科・コース		クラス数	在籍数		
				男	女	計
1年	普通科	探究科	1クラス	20	18	38
		スタンダードコース	4クラス	90	52	142
		スポーツ・健康福祉コース	1クラス	11	27	38
		I T・デザインコース	1クラス	23	15	38
2年	普通科	4クラス	70	79	149	
3年	普通科	5クラス	108	78	186	
		合計		322	269	591

出身中学校一覧

		1年			2年			3年			総計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
鯖江市	鯖江	26	20	46	13	5	18	24	13	37	101
	中央	35	24	59	15	21	36	23	14	37	132
	東陽	10	10	20	2	5	7	7	5	12	39
越前市	万葉	11	12	23	1	5	6	6	4	10	39
	武生第一	15	4	19	9	11	20	11	5	16	55
	武生第二	6	4	10	4	5	9	3	10	13	32
	武生第三	5	3	8	4	7	11	2	2	4	23
	武生第六	1	5	6	1	4	5	5	5	10	21
	武生第五		1	1	1		1	2		2	4
	南越	11	5	16	6	4	10	6	6	12	38
南条郡 南越前町	南条	5	3	8		2	2		3	3	13
	今庄	2	1	3				1		1	4
	河野	1	1	2					1	1	4
丹生郡 越前町	朝日		1	1	1		1				2
	織田		1	1	2	1	3		1	1	5
	宮崎		1	1							1
	越前		1	1				1		1	2
福井市	明倫				1		1				1
	明道		1	1							1
	成和		2	2							2
	至民				1		1				1
	大東		1	1							1
	足羽	5		5	3	5	8	7	5	12	25
	森田							1		1	1
	越廼		1	1							1
	清水	1		1	1		1	1		1	3
	足羽第一	1	1	2							2
	工大福井	1		1							1
坂井市	丸岡					1	1				1
	丸岡南					1	1				1
	春江	1	1	2							2
吉田郡 永平寺町	永平寺					1	1				1
勝山市	勝山南部	1		1							1
敦賀市	栗野		1	1	1		1	1		1	3
県外	県外	6	7	13	4	1	5	7	4	11	29
合計		144	112	256	70	79	149	108	78	186	591

進路状況（令和元年度卒業生）

	宮城	茨城	群馬	東京	神奈川	長野	富山	石川	福井	岐阜	愛知	奈良	京都	大阪	兵庫	広島	福岡	鹿児島	海外	合計
国公立大学		1	1			1	1		12							1		1		18
私立大学	1			8	1			7	48	2	8	2	4	4			1			86
国公立短大										1										1
私立短大				1					11		1									13
専門学校				3				1	25		1		1	5	1					37
文科省管外																				3
就職				1					19		1									21
浪人/その他									2											2
合計	1	1	1	13	1	1	1	8	117	3	11	2	5	9	1	1	1	1	3	181

教育課程（2・3年生）

教科	科目	標準 単位	普通科	
			1年	
国語	国語総合	4	6	
	国語表現	3		
	現代文A	2		
	現代文B	4		
	古典A	2		
	古典B	4		
地理歴史	世界史A	2		
	世界史B	4		
	日本史A	2		
	日本史B	4		
	地理A	2		
	地理B	4		
公民	現代社会	2	2	
	倫理	2		
	政治・経済	2		
数学	数学Ⅰ	3	3	
	数学Ⅱ	4	1	
	数学Ⅲ	5		
	数学A	2	2	
	数学B	2		
	数学活用	2		
理科	科学と人間生活	2		
	物理基礎	2		
	物理	4		
	化学基礎	2	2	
	化学	4		
	生物基礎	2	2	
	生物	4		
	地学基礎	2		
	地学	4		
	理科課題研究	1		
保健体育	体育	7~8	3	
	保健	2	1	
芸術	音楽Ⅰ	2	2	
	音楽Ⅱ	2		
	音楽Ⅲ	2		
	美術Ⅰ	2	2	
	美術Ⅱ	2		
	美術Ⅲ	2		
	工芸Ⅰ	2		
	工芸Ⅱ	2		
	工芸Ⅲ	2		
	書道Ⅰ	2	2	
	書道Ⅱ	2		
	書道Ⅲ	2		
	外国語	コミュニケーション英語基礎	2	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	4	
コミュニケーション英語Ⅱ		4		
コミュニケーション英語Ⅲ		4		
英語表現Ⅰ		2	3	
英語表現Ⅱ		4		
家庭	家庭基礎	2		
	家庭総合	4		
	生活デザイン	4		
情報	社会と情報	2	2	
	情報の科学	2		
専門科目計				
教科単位合計			33	
ホームルーム活動			1	
総合的な学習			1	
総計			35	

教科	科目	標準 単位	普通科	
			2年	
			文系	理系
国語	国語総合	4		
	国語表現	3		
	現代文A	2		
	現代文B	4	3	2
	古典A	2		
	古典B	4	4	2
地理歴史	世界史A	2	2	
	世界史B	4	3	
	日本史A	2	2	
	日本史B	4	3	
	地理A	2		
	地理B	4	3	
公民	現代社会	2		
	倫理	2		
	政治・経済	2		
数学	数学Ⅰ	3		
	数学Ⅱ	4	4	4
	数学Ⅲ	5	1	
	数学A	2	1	
	数学B	2	1	2
	数学活用	2		
理科	科学と人間生活	2		
	物理基礎	2		
	物理	4	3	
	化学基礎	2		
	化学	4	3	
	生物基礎	2		
	生物	4	3	
	地学基礎	2	2	
	地学	4		
	理科課題研究	1		
保健体育	体育	7~8	2	2
	保健	2	1	1
芸術	音楽Ⅰ	2	1	
	音楽Ⅱ	2		
	音楽Ⅲ	2		
	美術Ⅰ	2	1	
	美術Ⅱ	2		
	美術Ⅲ	2		
	工芸Ⅰ	2		
	工芸Ⅱ	2		
	工芸Ⅲ	2		
	書道Ⅰ	2	1	
	書道Ⅱ	2		
	書道Ⅲ	2		
	外国語	コミュニケーション英語基礎	2	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	4	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	4	4
コミュニケーション英語Ⅲ		4		
英語表現Ⅰ		2		
英語表現Ⅱ		4	3	2
家庭	家庭基礎	2	2	2
	家庭総合	4		
	生活デザイン	4		
情報	社会と情報	2		
	情報の科学	2		
専門科目計				
教科単位合計			33	33
ホームルーム活動			1	1
総合的な学習			1	1
総計			35	35

教科	科目	標準 単位	普通科				
			3年文系		3年理系		
			文Ⅰ	文Ⅱ	理Ⅰ	理Ⅱ	
国語	国語総合	4					
	国語表現	3					
	現代文A	2					
	現代文B	4	3	3	2	2	
	古典A	2					
	古典B	4	4	4	3	2	
地理歴史	世界史A	2					
	世界史B	4	4	4			
	日本史A	2					
	日本史B	4	4	4			
	地理A	2					
	地理B	4	3				
公民	現代社会	2					
	倫理	2					
	政治・経済	2	3	2			
数学	数学Ⅰ	3					
	数学Ⅱ	4	3	2			
	数学Ⅲ	5	5				
	数学A	2					
	数学B	2	3	2	2	2	
	数学活用	2					
理科	科学と人間生活	2					
	物理基礎	2					
	物理	4	4				
	化学基礎	2	2	4			
	化学	4	3				
	生物基礎	2	2	2	4		
	生物	4	4				
	地学基礎	2	2	4			
	地学	4					
	理科課題研究	1					
保健体育	体育	7~8	2	3@2	2	3@2	
	保健	2	1	1			
芸術	音楽Ⅰ	2					
	音楽Ⅱ	2	3*				
	音楽Ⅲ	2					
	美術Ⅰ	2					
	美術Ⅱ	2	3				
	美術Ⅲ	2					
	工芸Ⅰ	2					
	工芸Ⅱ	2					
	工芸Ⅲ	2					
	書道Ⅰ	2					
	書道Ⅱ	2	3				
	書道Ⅲ	2					
	外国語	コミュニケーション英語基礎	2				
コミュニケーション英語Ⅰ		3	4				
コミュニケーション英語Ⅱ		4	4	4	4	4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	4	4	4	4	
英語表現Ⅰ		2					
英語表現Ⅱ		4	3	2	2	2	
家庭	家庭基礎	2					
	家庭総合	4					
	生活技術	4					
情報	社会と情報	2	2				
	情報の科学	2	2	2			
専門科目計			3	2	2		
教科単位合計			33	33	33	33	
ホームルーム活動			1	1	1	1	
総合的な学習			1	1	1	1	
総計			35	35	35	35	

注1：3年次文Ⅱの芸術・専門は、音楽・美術・書道・子どもの発達と保育のいずれか3単位を選択

数学Ⅱ・社会と情報は、いずれか2単位を選択

注2：3年次文Ⅱ・理Ⅱの体育・情報・専門は、体育・情報の科学・素描・演奏研究・フードデザインのいずれか2単位を選択

教育課程（1年生）

探究科・普通科スタンダードクラス（その1）

各教科	科目	学年	探究科 理系				探究科 文系				普通科 スタンダード 理系				普通科 スタンダード 文Ⅰ				普通科 スタンダード 文Ⅱ			
			1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
国語	国語総合	4	5			5	5			5	6			6	6			6	6			6
	国語表現	3																				
	現代文A	2																				
	現代文B	4		2	2	4		3	3	6		2	2	4		3	3	6		3	4	7
	古典A	2																				
地理歴史	古典B	4		2	3	5		4		4		2	3	5		4	4	8		4	3	7
	世界史A	2		2		2	2			0.2			2	2		2		0.2	2			0.2
	世界史B	4														3	4	0.7		3	4	0.7
	日本史A	2					2			0.2					2			0.2	2			0.2
	日本史B	4														3	4	0.7		3	4	0.7
	地理A	2																				
	地理B	4		3	3	6						3	3	6								
* 日本史世界史演習		2																			@2	0.2
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2	2			2
	倫理	2						2		2												
	政治・経済	2							2	2							3	3			2	2
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3	3			3
	数学Ⅱ	4	1	3		4	1	4		5	1	4		5	1	4	3	8	1	4	3	8
	数学Ⅲ	5										1	5	6								
	数学A	2	2			2	2			2	2			2	2	1		3	2	1		3
	数学B	2					2			2	2	2		4		1	3	4		1	1@2	2.4
理科	物理基礎	2	2			2	2			2	2			2								
	物理	4										3	4	0.7								
	化学基礎	2		2		2		2		2	2			2	2			2	2			2
	化学	4										3	4	7								
	生物基礎	2	2			2	2			2	2			0.2		2		2		2		2
	生物	4										3	4	0.7								
	地学基礎	2									2			2	2			2	2			2
地学	4																					
保健体育	体育	7~8	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1	@2	2.4
芸術	音楽Ⅰ	2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	2	1		0.3	2	1		0.3
	音楽Ⅱ	2																			2	0.2
	音楽Ⅲ	2																				
	美術Ⅰ	2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	2	1		0.3	2	1		0.3
	美術Ⅱ	2																			2	0.2
	美術Ⅲ	2																				
	書道Ⅰ	2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	2	1		0.3	2	1		0.3
	書道Ⅱ	2																			2	0.2
書道Ⅲ	2																					
外国語	コミュニケーション英語基礎	2																				
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4			4	4			4	4			4	4			4	4			4
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			4	4			4	4			4	4			4	4			4	4
	英語表現Ⅰ	2	2			2	2			2	3			3	3			3	3			3
	英語表現Ⅱ	4		2	2	4						2	2	4		3	3	6		3	4	7
家庭	家庭基礎	2	2			2	2			2				2				2				2
	家庭総合	4																				
情報	社会と情報	2	2			2	2			2	2			2	2			2	2			2
専門科目	計		9	16	25		6	21	27						4	4					0.2	0.2
ホームルーム活動	計	33	32	32	97	33	32	32	97	33	33	33	99	33	33	33	99	33	33	33	99	
総合的な探究の時間	3~6	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	
自立活動		※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
合	計	35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105	
備考	<p>・1年次の数学は、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」の順に履修する。</p> <p>・2年次の数学は、「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」の順に履修する。</p> <p>・2年次の物理は、「物理基礎」「物理」の順に履修する。</p> <p>・2年次の生物は、「生物基礎」「生物」の順に履修する。</p> <p>・地歴は「世界史A」と「日本史B」または「日本史A」と「世界史B」を履修する。</p> <p>・芸術は、ⅠⅡを継続履修する。</p> <p>・@2単位は、*「日本史世界史演習」「数学B」「体育」「保健」「素描」「演奏研究」*「実践生物」の中から1科目を選択する。</p> <p>・*「日本史世界史演習」*「実践生物」は学校設定科目。</p>																					

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。

2 専門教育に関する各教科・科目については、第4表に記入すること。

3 ホームルーム活動については、選当たりの単位時間数を記入すること。

4 総合的な探究の時間については、履修する単位数を記入すること。

探究科・普通科スタンダードクラス（その2）

学科・類型			探究科 理系				探究科 文系				普通科 スタンダード 理系				普通科 スタンダード 文I				普通科 スタンダード 文II							
各教科	科目	学年	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計				
		標準単位																								
音楽	演奏研究	2~6																				@2	0.2			
美術	素描	2~12																				@2	0.2			
探究	*古典探究	4							4	4																
	*世界史探究	7						3	4	0.7																
	*日本史探究	7						3	4	0.7																
	*理数数学A	3		3		3																				
	*理数数学B	7			7	7																				
	*数学探究A	4							4	4																
	*数学探究B	2							2	2																
	*実践化学	2							2	2							2	0.2								
	*実践生物	2							2	2								2	2			@2	0.2			
	*実践地学	2															2	0.2								
*物理探究	7~8		3	5	4	7.8																				
*化学探究	7~8		3	4	5	7.8																				
*生物探究	7~8		3	5	4	7.8																				
英語	*英語総合	6						3	3	6																
計				9	16	25		6	21	27												4	4		0.2	0.2
備	考		・2年次の「化学探究」は、「化学基礎」「化学探究」の順に履修する。 ・*「理数数学A」*「理数数学B」*「物理探究」*「化学探究」*「生物探究」は学校設定科目。 ・2年次に「物理探究」を選択した場合は3年次「物理探究」と「化学探究」を、「生物探究」を選択した場合は3年次「生物探究」と「化学探究」を履修する。				・地歴は「世界史A」と「日本史探究」または「日本史A」と「世界史探究」を履修する。 ・*「古典探究」*「世界史探究」*「日本史探究」*「数学探究A」*「数学探究B」*「実践化学」*「実践生物」*「英語総合」は学校設定科目。				・*「実践化学」*「実践生物」*「実践地学」は学校設定科目。															

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。
 2 専門教育に関する各教科・科目については、まとめて記入すること。

普通科スポーツ・健康福祉コース 普通科IT・デザインコース (その1)

各教科	科目	学年 標準単位	普通科 スポーツ・健康福祉コース (スポーツ専攻)				普通科 スポーツ・健康福祉コース (健康福祉専攻)				普通科 IT・デザインコース (IT専攻)				普通科 IT・デザインコース (デザイン専攻)				
			1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	
国語	国語総合	4	4			4	4			4	4			4	4			4	
	国語表現	3																	
	現代文A	2																	
	現代文B	4		2	3	5		2	3	5		2	3	5		2	3	5	
	古典A	2																	
古典B	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		
地理歴史	世界史A	2		2		2		2		2		2		2		2		2	
	世界史B	4																	
	日本史A	2																	
	日本史B	4		2	2	4		2	2	4			4	4			4	4	
	地理A	2																	
	地理B	4																	
*日本史世界史演習		2																	
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2	
	倫理	2																	
	政治・経済	2			2	2			2	2									
数学	数学I	3	3			3	3			3	3			3	3			3	
	数学II	4		3	4	7		3	4	7		4	3	7		3	3	6	
	数学III	5																	
	数学A	2									2			2	2			2	
	数学B	2										2	1	3					
理科	物理基礎	2										2		2		2		2	
	物理	4																	
	化学基礎	2			2	2			2	2			2	2			2	2	
	化学	4																	
	生物基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2	
	生物	4																	
	地学基礎	2		2		2		2		2									
地学	4																		
保健体育	体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	
芸術	音楽I	2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	
	音楽II	2																	
	音楽III	2																	
	美術I	2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	
	美術II	2																	
	美術III	2																	
	書道I	2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	2			0.2	
書道II	2																		
書道III	2																		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2																	
	コミュニケーション英語I	3	4			4	4			4	4			4	4			4	
	コミュニケーション英語II	4		4		4		4		4		4		4		4		4	
	コミュニケーション英語III	4			4	4			4	4			4	4			4	4	
	英語表現I	2														2		2	
英語表現II	4																		
家庭	家庭基礎	2										2		2		2		2	
	家庭総合	4	2	2		4	2	2		4									
情報	社会と情報	2	2			2	2			2	2			2	2			2	
専門科目計			6	8	8	22	6	8	6	20	6	7	8	21	6	8	9	23	
小			30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	
ホームルーム活動			1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
自立活動			※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
合計			32	32	32	96	32	32	32	96	32	32	32	96	32	32	32	96	
備考																			

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。 2 専門教育に関する各教科・科目については、第4表に記入すること。 3 ホームルーム活動については、週当たりの単位時間数を記入すること。 4 総合的な探究の時間については、履修する単位数を記入すること。

普通科スポーツ・健康福祉コース 普通科IT・デザインコース (その2)

学科・類型			普通科 スポーツ・健康福祉コース (スポーツ専攻)				普通科 スポーツ・健康福祉コース (健康福祉専攻)				普通科 IT・デザインコース (IT専攻)				普通科 IT・デザインコース (デザイン専攻)			
			1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
各教科	科目	学年																
		標準単位																
家庭	子どもの発達と保育	2~6							2	2								
	フードデザイン	2~6					2	2		4								
情報	情報の表現と管理	2~4									2			2				
	情報テクノロジー	2~4									2	2		4				
	アルゴリズムとプログラム	2~6									2	2	2	6				
	データベース	2~6											3	3				
	情報システム実習	4~8										3	3	6				
福祉	社会福祉基礎	2~6					2			2								
	生活支援技術	2~12						4		4								
	介護総合演習	2~6							2	2								
	こことからの理解	2~12		2		2		2		2								
	*ボランティア基礎	2					2			2								
体育	スポーツⅠ	1~18	6	6	6	18												
	スポーツⅡ	1~18																
	スポーツⅢ	1~18																
	*総合スポーツ	2			2	2			2	2								
美術	美術史	2~4													1	1	2	
	素描	2~12													3	2	3	8
	構成	2~12													3			3
	絵画Ⅰ	2~12													3			0:3
	絵画Ⅱ	2~12														3		0:3
	ビジュアルデザインⅠ	2~12													3			0:3
	ビジュアルデザインⅡ	2~12														3		0:3
	クラフトデザインⅠ	2~12													3			0:3
	クラフトデザインⅡ	2~12														3		0:3
	映像表現Ⅰ	2~12													3			0:3
	映像表現Ⅱ	2~12														3		0:3
	鑑賞研究	2~6															2	2
	*地域のデザイン	2													2			2
探究	*実践生物	2							2	2								
計			6	8	8	22	6	8	8	22	6	7	8	21	6	8	9	23
備考			*「総合スポーツ」は学校設定科目。				*「ボランティア基礎」「総合スポーツ」「実践生物」は学校設定科目。								*美術は、ⅠⅡを継続履修する。 *「地域のデザイン」は学校設定科目。			

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。
2 専門教育に関する各教科・科目については、まとめて記入すること。

研究開発報告（文部科学省提出書類より抜粋）

研究開発完了報告書

1 事業の実施期間

2019年5月30日（契約締結日）～2022年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立鯖江高等学校

学校長名 福嶋 洋之

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する
市民の育成

4 研究開発概要

本校は平成29年度より、鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、「総合的な学習の時間」だけでなく、数学や地歴公民科、理科、家庭科、芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を行い、一定の成果を上げることができた。それに伴い市役所・NPO・同窓会などの市民との連携を強化し、これまでに様々な取り組みを行ってきた。

これらの活動をもとにして、本事業の地域魅力化型への参加を申請し、令和元年度に本事業の指定を受けることとなった。本事業により地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきをさらに強め、地域と協働する高校教育のモデル、つまり鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築し、地域資源を活用した全科目・教科でのカリキュラム開発・授業実践を全国へ発信するよう、現在取り組んでいる。

その取り組みの一環として、令和元年6月に鯖江市、鯖江商工会議所、鯖江高校で三者連携協定を結び、本校の教育活動に地域の方々に深く関わっていただける体制を作ることができた。この連携により、地域から様々な方に教育活動に参加していただくことができ、より広く、より深い教育活動を行うことが可能となった。

これらのことを踏まえ本研究開発では令和元年度に引き続き、①市民との協働による学びを促進し持続可能な地域社会を形成する市民を育成する、②市民との協働による学びにより生徒の探究力を育成する、③市民との協働による学びの成果を広く発信し地域の中核としての学校を目指す、という3つの目的を設定した。さらに、育成を目指す地域人材像として、①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる市民、②地域の伝統や文化を継承し新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民、③多様な価値観を共有しあらゆる人々を包摂する社会を形成する市民、④持続可能な地域社会の形成に向け自ら考え行動する市民、という4つを設定した。

このような地域人材を育成するため、①多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ

表現する力, ②他者に共感し協調して問題解決を図る力, ③目標の達成に向けて計画を立て行動する力, といった3つの具体的能力を育成することを目標に, 本研究開発を実施していく。

5 学校設定教科・科目の開設, 教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・

開設していない

- ・教育課程の特例の活用 活用している ・

活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長	地域研究の専門家からの外部評価
田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長	地元経済界からの外部評価
宮本 昌彦	鯖江市産業環境部長	地元行政からの外部評価
澤 和広	鯖江市中学校長会長	地元中学校からの外部評価
齋藤 多久馬	福井県社会福祉協議会副会長	地元関係団体からの外部評価

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
鯖江市役所	佐々木勝久
福井経済同友会	江守康昌・林正博
金沢大学地域創造学類	佐川哲也
福井大学教職大学院	松木健一
福井県立大学	進士五十八
鯖江市中学校長会	澤和広
福井新聞社	吉田真士
NPO 法人エルコミュニティ	竹部美樹
鯖江高校同窓会	久保田治裕
福井県教育委員会	豊北欽一

8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	木村 優	福井大学教職員大学 准教授	雇用関係なし
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	竹部 美樹	NPO法人 エルコミュニティ 代表	雇用関係なし

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
コンソーシアムについて			1回		1回	1回			4回	1回		1回	1回
カリキュラム開発等専門家について	1回				1回					1回			
地域協働学習実施支援員について			1回	1回									
運営指導委員会について									1回			1回	

(2) 実績の説明

・コンソーシアムについて

活動日程	活動内容
令和2年6月26日	本校生徒の地元テレビ出演の視察 ・クッキング部が吉川ナスをアレンジした料理3品を調理し紹介している様子を、鯖江市役所職員が視察をした。
令和2年8月17日	鯖江市の企業との交流会の実施（事前打ち合わせ有） ・1年探究科の探究活動で、鯖江市商工会議所の紹介による地元企業5社と交流会を実施した。 ・各企業の担当者も参加してレポート発表を行い、担当者からの助言もいただいた。
令和2年9月2日	鯖江市、商工会議所へのアンケート ・三者連携協議会の代わりに、アンケートにより意見を集約した。 ・鯖江高校に求める学校像や生徒像を聴取した。
令和2年10月30日	新聞記者による特別授業の実施（事前打ち合わせ有） ・昨年度に引き続き1年普通科で講演会を実施した。 ・福井新聞記者に、その場で直接生徒の活動を支援していただいた。
令和2年11月20日	2年探究活動中間報告会の実施（事前打ち合わせ有） ・2年の探究活動の中間報告会を公開した。 ・鯖江市、SDGs推進室の担当者に、生徒への助言および活動の支援をしていただいた。
令和2年11月25日	鯖江市役所との打ち合わせ ・これまでの活動についての確認をした。 ・今後の活動についての協議をした。

令和2年11月25日	<p>教員研修会の実施（事前打ち合わせ有）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エコネットさばえ」の担当者により、カードゲームを通して、2030SDGsについて研修会を行った。
令和2年12月14日	<p>探究科 2030SDGsカードゲーム体験の実施（事前打ち合わせ有）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年探究科の探究活動で「エコネットさばえ」の担当者により、カードゲームを通して、2030SDGsについて特別授業を実施していただいた。
令和3年2月12日	<p>前鯖江市長と語る会の実施（事前打ち合わせ有）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に鯖江市長を退任された牧野百男氏を招いて、1年生全員に講演会を実施した。 ・牧野氏のこれまでの取組みを紹介していただき、鯖江市への理解を深めた。 ・放課後には教員対象にも講演会を実施した。
令和3年3月16日	<p>SDGs啓発ポスター発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の総合の時間に作成したポスターの発表会を実施した。 ・SDGs推進室の担当者に、生徒への助言および活動の支援をしていただいた。

・カリキュラム開発等専門家について

活動日程	活動内容
令和2年4月29日	<p>教員研修に関する打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校教員研修の計画や内容に関して指導・助言をいただいた。
令和2年8月12・13日	<p>生徒国際フォーラムへの生徒の参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の参加への指導をしていただいた。 ・運営に関する打ち合わせを行った。
令和2年12月10日	<p>地域探究カンファレンスでの協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動における地域との連携の在り方などについて協議を行った。

・地域協働学習実施支援員について

日程	内容
令和2年6月23日	今年度の実施計画について打ち合わせ
令和2年7月20日	<p>教員研修会の実施（事前打ち合わせ有）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元鯖江市の現状や魅力などを指導していただいた。

・運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和2年11月20日	第1回会合 ・「総合的な探究の時間」の授業を視察した。 ・これまでの活動内容について協議を行った。
令和2年2月19日	第2回会合 ・「総合的な探究の時間」の授業を視察した。 ・これまでの活動内容および次年度（最終年度）に向けた予定について協議を行った。

・高等学校と地域の協働による取組みに関する協定文書等の締結状況について

活動日程	活動内容
令和3年2月26日	仁愛大学と鯖江高校との高大連携・高大接続に関する協定書締結 ・課題研究（探究活動）の指導にかかわる事項，授業力向上のための研究活動に関わる事項，その他本協定の目的に関わる事項について，協定を締結した。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年探究科での科目「探究」における課題設定					1回		1回	2回	2回		1回	
1年普通科での「総合的な探究の時間」における新聞づくり							1回				2回	
2年「総合的な探究の時間」におけるSDGsに関する探究活動								1回				1回
総合的な探究の時間以外での地域人材活用			1回	1回							2回	
授業改善のための教員研修会				1回				1回			1回	

(2) 実績の説明

・研究開発の内容や地域課題研究の内容について

① 1年探究科での科目「探究」における課題設定について

今年度，新学科「探究科」が設置され，「探究」の時間が1年次で1時間，2～3年ではそれぞれ2時間ずつ実施され，充実した活動が可能である。本年度，1学期は1年普通

科とともに探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んできた。2学期からは普通科とは別に、2年次からの本格的な探究活動に向けて、課題設定の準備に取り組んできた。まずは身近な鯖江市について知るために、「鯖江市の企業との交流会」を実施し、企業での活動内容や経営理念などを理解したうえで、その場でレポートを作成し、各企業の担当者を前に発表をする活動を行った。また福井県について県未来戦略課の方を招き、「ふるさと福井の未来を一緒に考えましょう」という活動を行った。

次に探究課題を考えていくために、仁愛大学と新たに連携をとり、課題研究の進め方や研究手法などについて、理系、文系のそれぞれの専門の立場から指導をしていただいた。12月に入って、エコネットさばえから、カードゲーム「2030SDGs」の公認ファシリテーターの資格を有する榎原秀典氏に、カードゲームを通して、自分の住む社会や生活に置き換えて考え、追究したい課題を見つけさせる活動を行った。

3学期には具体的な課題設定作業に入り、2年生での本格的な探究活動に向けて活動を進めた。

②1年普通科での「総合的な探究の時間」における新聞づくりについて

昨年度までの普通科とは異なり、本年度より普通科はスタンダードコース、スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコースの3コース編成となった。それにともない、各コースごとの特色を活かした探究活動を行っていくこととした。そのために1学期は探究科と同様、探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んできた。2学期以降は昨年度の1年次の実績を踏まえ、新聞づくりの活動を通して、探究活動に必要な情報の取り扱い方などを学ぶ活動を行ってきた。まずは昨年度と同様、福井新聞社の記者に講演をしていただき、新聞記事について直接指導していただいた。その後、各自で作成していく新聞記事のテーマを検討し、情報を収集、インタビューなどの調査活動を行い、実際に新聞記事を作成し、発表することで、課題研究の全体の流れを実際に体験できるようになる。インタビューをする対象の選定にはコンソーシアムに協力をしていただき、それぞれのテーマに合わせて、多くの方にインタビューを行った、直接インタビューができないものに関しては、オンラインでのインタビューも行った。

2月12日に、1年生全体（普通科、探究科）に令和2年10月に鯖江市長を退任した牧野百男氏による講演会を行った。本校卒業生である牧野氏に鯖江市のこれまでの取り組みなどについて熱く語っていただき、生徒に鯖江に関して、より興味をもたせることができた。

③2年「総合的な探究の時間」におけるSDGsに関する探究活動について

新型コロナウイルスの影響により、昨年度末に計画していた、鯖江市および鯖江商工会議所の協力による分野別の座談会が実施できなくなり、3学期での課題設定の準備ができなくなった。また今年度当初、学校外の人との接触ができなくなったことで、地域の人との交流ができなくなったため、活動内容を鯖江市も力を入れているSDGsに重点をおいて、それぞれがテーマを設定して、各自でインターネットなどを活用して探究活

2学期に中間発表会を設定し、これまでの探究活動の報告を行った。この発表会では、鯖江市とさばえSDGs推進センターから担当者を招聘し、各報告それぞれに今後の生徒の探究活動等について指導・助言をいただいた。

3学期はこれまでの活動をもとに、SDGs啓発ポスターを作成し、3月16日に発表会を実施した。発表会にはSDGs推進センターの方をお迎えし、生徒への助言および活

動の支援をしていただいた。

④総合的な探究の時間以外での地域人材活用について

今年度当初は新型コロナウイルスの影響により、昨年度から計画していた外部人材の活用ができない状況が続き、改めて可能な活動を模索してきた。今年度の地域人材を活用した活動は下記のとおりである。

○テレビ生放送によるクッキング部による吉川ナスのアレンジレシピの紹介

昨年度に引き続き、クッキング部では地元食材を使ったレシピ開発を継続しており、6月26日に地元のFBCテレビの番組に生放送で出演し、吉川ナスの歴史、収穫体験、魅力、アレンジレシピなどを紹介した。

○地理の授業での野外活動

7月31日に3年地理の授業で、運営指導委員でもある田中謙次氏を含む田中地質コンサルタントの方により、野外活動「鯖江の地質や地形から分かること」の実施。地質の専門家により、学校周辺の断層などの地層について、直接観察することで詳しく説明を受けた。

○音楽の授業での人形浄瑠璃体験

2月10日に2年音楽の授業で、地元の有志で立ち上げた「近松座」から、大橋國利氏をはじめ7名をお招きして、人形浄瑠璃の体験活動を行った。実物の人形や三味線を直に触れることができ、歴史や当時の文化を感じることができた授業であった。

○音楽の授業での民族楽器体験

2月17日に1年音楽の授業で、昨年度に引き続き、民族楽器収集家であり「轟音」というアマチュア演奏団の一員でもある森眞一郎氏をお招きし、20種類を超す楽器を演奏する授業を行った。普段から目にしない学期に触れるだけでなく、テーマを決めて演奏するなど、いろいろな経験ができ、楽器を通して異文化に触れることができた。

⑤授業改善のための教員研修会について

昨年度の運営指導委員会で、「生徒たちに地域との協働活動を指導していくためには、教員自身が地域についてもっと知るべきである」との指摘を受け、7月20日にNPO法人エルコミュニティ・代表の竹部美樹氏を講師として招き、鯖江市の現状や様々な取組みなどを詳しく説明していただき、教員全体の意識を高めた。この研修会を受けて、教員を数名ごとのグループに編成し、グループごとに授業研究を実施していき、教科の枠を越え連携して教育活動が行えるようにした。

11月25日にはエコネットさばえからカードゲーム「2030SDGs」の公認ファシリテーターの資格を有する榎原秀典氏に、生徒の活動と同様にカードゲームを指導していただき、教員自身もSDGsの現状や取組みなどを実感できる活動を実施した。

2月12日には生徒への講演会に引き続き、前鯖江市長の牧野百男氏による講演会を教員対象にも行った。牧野氏のこれまでの取組みを紹介していただき、生徒とともに、教員も鯖江市への理解をさらに深めた。

- ・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

地域人材や地域資源などを活用した探究活動を、各学年での「総合的な探究の時間」で実施した。

また、各教科での内容と必要に応じて、地域との協働により特別授業などを実施した。

- ・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組みについて

来年度、探究科2年次で探究を取り入れた教科の授業を実施し、総合的な探究の時間や教科を横断した授業を実施する計画である。
- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

今年度より校務分掌として「探究研究部」を新設し、地域協働活動・探究活動・学力向上・教員研修などの業務を教員5名で担当した。
- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

地域協働推進委員会（校長、教頭、探究研究部長、教務部長、進路指導部長、各教科主任、定時制教頭）を設置し、探究研究部を中心として全教員で研究開発を推進している。
- ・学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

地域協働推進委員会、運営指導委員会などでの進捗状況を把握する。
探究研究部との情報共有を行う。
- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組みについて

鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校相互連携協定の連絡協議会での進捗状況の確認および指導・助言・提案などを行う。また、各行事での企画・運営に関して指導・助言などをいただく。
- ・運営指導委員会等、取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会を2回実施、指導・助言を受ける
- ・類型毎の趣旨に応じた取組みについて（地域魅力化型の活動として）

地元テレビ局の生放送で、クッキング部が吉川ナスのアレンジレシピを紹介した。
地質専門家による地理の授業で、野外活動を行い、鯖江の地質や地形を知った。
鯖江市の企業との交流会を実施し、地元企業の取組みや魅力を知った。
音楽の授業で人形浄瑠璃の体験をし、鯖江の歴史や文化を理解した。
- ・成果の普及方法・実績について

地域協働ニュース第1号～第16号を作成した。
広報誌を作成し、鯖江市の中学生に配布し、鯖江市役所にも置かせていただいた。
各行事でのマスコミへの取材要請、及び対応を行った。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業の成果目標として、「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を、生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い、「卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする」と設定した。「高校魅力化評価システム」のアンケート結果から次のような指標となった。

	アンケート項目	全校生徒の割合 (%)			学年毎の割合 (%)					
		2019年度	→	2020年度	増減	入学年度	2019年度	→	2020年度	増減
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8	→	68.8	-3.0	2020 入学生	64.4			
						2019 入学生	65.3	→	71.4	+6.1
						2018 入学生	72.0	→	72.7	+0.7
						2017 入学生	77.5			
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8	→	57.5	-2.3	2020 入学生	53.4			
						2019 入学生	48.3	→	60.5	+12.2
						2018 入学生	57.0	→	60.7	+3.7
						2017 入学生	73.8			
協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7	→	90.2	+0.5	2020 入学生	87.7			
						2019 入学生	90.5	→	93.2	+2.7
						2018 入学生	87.6	→	91.3	+3.7
						2017 入学生	91.3			
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1	→	90.2	-0.9	2020 入学生	88.5			
						2019 入学生	91.2	→	91.2	±0
						2018 入学生	89.2	→	91.8	+2.6
						2017 入学生	93.1			
	共同作業だと自分の力が発揮できる	72.6	→	72.4	-0.2	2020 入学生	69.2			
						2019 入学生	72.1	→	74.1	+2.0
						2018 入学生	69.4	→	75.4	+6.0
						2017 入学生	76.9			
行動力	目標を設定し、確実に行動することができる	65.1	→	63.0	-2.1	2020 入学生	57.6			
						2019 入学生	57.8	→	64.6	+6.8
						2018 入学生	62.4	→	69.4	+7.0
						2017 入学生	75.0			
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2	→	64.2	-5.0	2020 入学生	56.9			
						2019 入学生	63.3	→	65.3	+2.0
						2018 入学生	64.5	→	73.2	+8.7
						2017 入学生	80.0			
	自主的に調べものや取材を行う	60.4	→	58.3	-2.1	2020 入学生	49.0			
						2019 入学生	46.9	→	55.8	+8.9
						2018 入学生	54.3	→	73.2	+18.9
						2017 入学生	67.5			
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2	→	30.9	+1.7	2020 入学生	27.7			
						2019 入学生	21.1	→	33.3	+12.2
						2018 入学生	26.9	→	33.3	+6.4
						2017 入学生	31.9			

・昨年度と比べ、全校生徒の割合で見るとほぼ全ての項目で数値が減少している。これは昨年度に比べて1年次の数値が低くなっているため、新型コロナウイルスの影響により、活動時期が遅れ、また活動に制限があったためだと考えられる。しかし入学年度別の進級後の数値では全ての項目で上昇しており、生徒の意識は確実に向上している。

・「高校魅力化評価システム」のアンケート結果を分析すると、昨年度に比べ特に今年度2年生(2019入学生)の「探究性」「社会性」の伸び率が顕著である。

- ・「自主的に調べものや取材を行う」項目の2018入学生においては、昨年度54.3%→今年度73.2%と約20%上昇した。「学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く」項目の2019入学生においては、昨年度21.1%→今年度33.3%と約12%上昇しており、探究活動その他様々な教育活動の成果の表れであると考えられる。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

・3年間のカリキュラムの作成

本事業は本年度で2年を終了し、2年間のカリキュラムを検討し実施してきた。来年度は最終年度であり、3年間のカリキュラムを作成し実施していく。しかし昨年度末から本年度当初にかけて新型コロナウイルスの影響により、活動そのものが制限を受け、計画通りに実施できずに内容を一部修正しながらの実施となったため、来年度以降は1～2年次のカリキュラムの内容を再度検討・実施して、必要があれば修正していくことも必要があると考えられる。

・学科・コースに合わせたカリキュラム作り

これまでは普通科のみの学科であったが、今年度探究科が新設され、また普通科もスタンダードコース、スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコースの3コース編成となり、それぞれの特色に合わせたカリキュラムが必要になった。今年度の現2・3年生は学年で共通のカリキュラムだが、1年生に関しては探究科と普通科で差別化を図り、2学期から異なるカリキュラムで「総合的な探究の時間」を行ってきた。来年度の2年次では普通科でもコースによる特色を活かしたカリキュラムを検討し開発していくために、コンソーシアムの協力を得ながら地域と協働した取組みを計画していく必要がある。

・生徒の探究活動の充実

今年度は新型コロナウイルスの影響により、学校外の人との接触が制限され、地域との協働が十分にできなかった部分が多かった。探究科は1クラス38名であるため、小規模の集まりで実施できたものも多かったが、普通科全体では規模が多くなり、活動できないものも多い。今後はそのような状況でも活動が可能な地域との協働の在り方を検討し、実施していく必要がある。

・教員研修の充実

昨年度の課題を踏まえ、本年度は教員が鯖江市についてもっと知ることを目的に教員研修会を実施してきた。年度が変われば教員の異動などもあり、また別の講師によって違った観点から鯖江市について研修会を行うことで、全教員が本事業に向上心をもって参加していけるように継続していく必要がある。また今年度から実施している、教科の枠を越えたグループでの授業研究をさらに進め、授業改善や指導力向上について互いに理解を深めて研究していくよう取り組んでいく。

2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

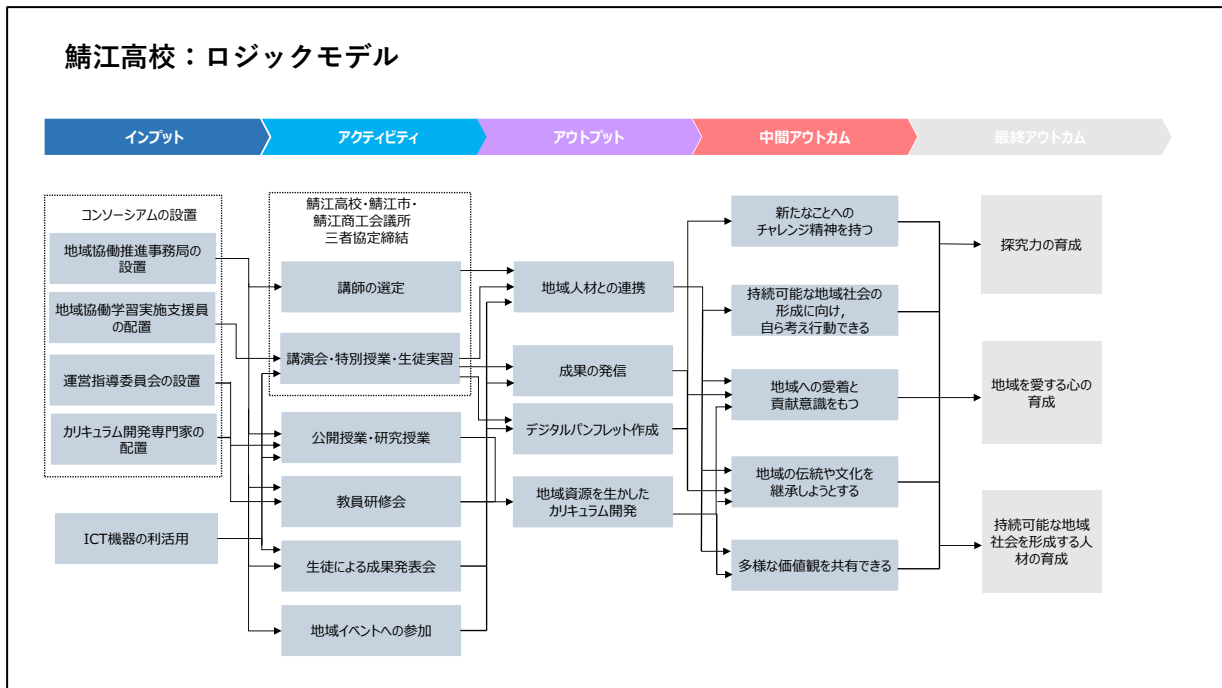
1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)	
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を、生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い、卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする。表現力は作成した資料やプレゼンテーション、協調力は毎回の授業における振り返り、行動力はフィールドワークや発表会など学校外の活動への参加回数、などによって評価する。							
a	本事業対象生徒:		67.7	66.2		65	単位: %
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方: 具体的能力の定着状況の測定を毎年度末ごとに実施する。初年度の2019年度末では定着状況を50%とし、翌年度の2020年度末では前年度比30%増加の65%とする。最終年度の2021年度末では引き続き30%増加の85%以上とする。目標設定に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 高等学校卒業後の地元就職率を100%とする。また、将来地元で就職を希望する生徒の割合を85%以上とする。							
b	本事業対象生徒:		90	100		72	単位: %
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方: 高等学校卒業後の民間企業への就職は、地元民間企業への就職活動を最優先に行い、就職率を100%とする。また、地元就職を希望する生徒の割合を初年度の2019年度末では60%とし、翌年度の2020年度末では前年度比20%増加の72%とする。最終年度の2021年度末では引き続き20%増加の85%以上とする。目標設定に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							
2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)	
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
a	生徒による研究や実践の中間発表と最終発表を、地域及び教育関係機関に向けて4回行う。					単位: 回	
			2	2		3	
目標設定の考え方: 初年度は2回、次年度は3回、最終年度は4回とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を求める。							
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
b	県内・県外との合同発表会・研究発表会などへの参加回数を12回とする。					単位: 回	
			2	3		6	
目標設定の考え方: 初年度は3回、次年度は6回、最終年度は12回とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を求める。							
3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)	
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
a	地域の活動に参加した本校生徒の延べ人数を600名とする。					単位: 延べ人数	
			60	0		300	
目標設定の考え方: 地域の活動に参加した延べ人数を初年度は150名、次年度は300名、最終年度は600名とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を求める。							

<調査の概要について>

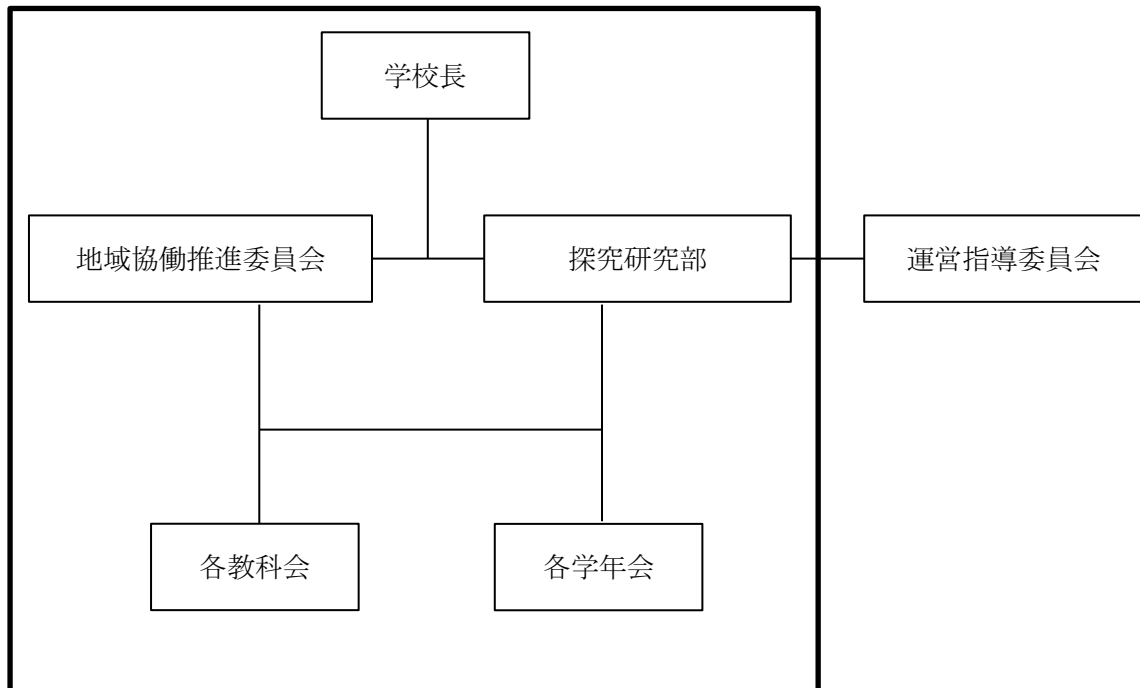
1. 生徒を対象とした調査について

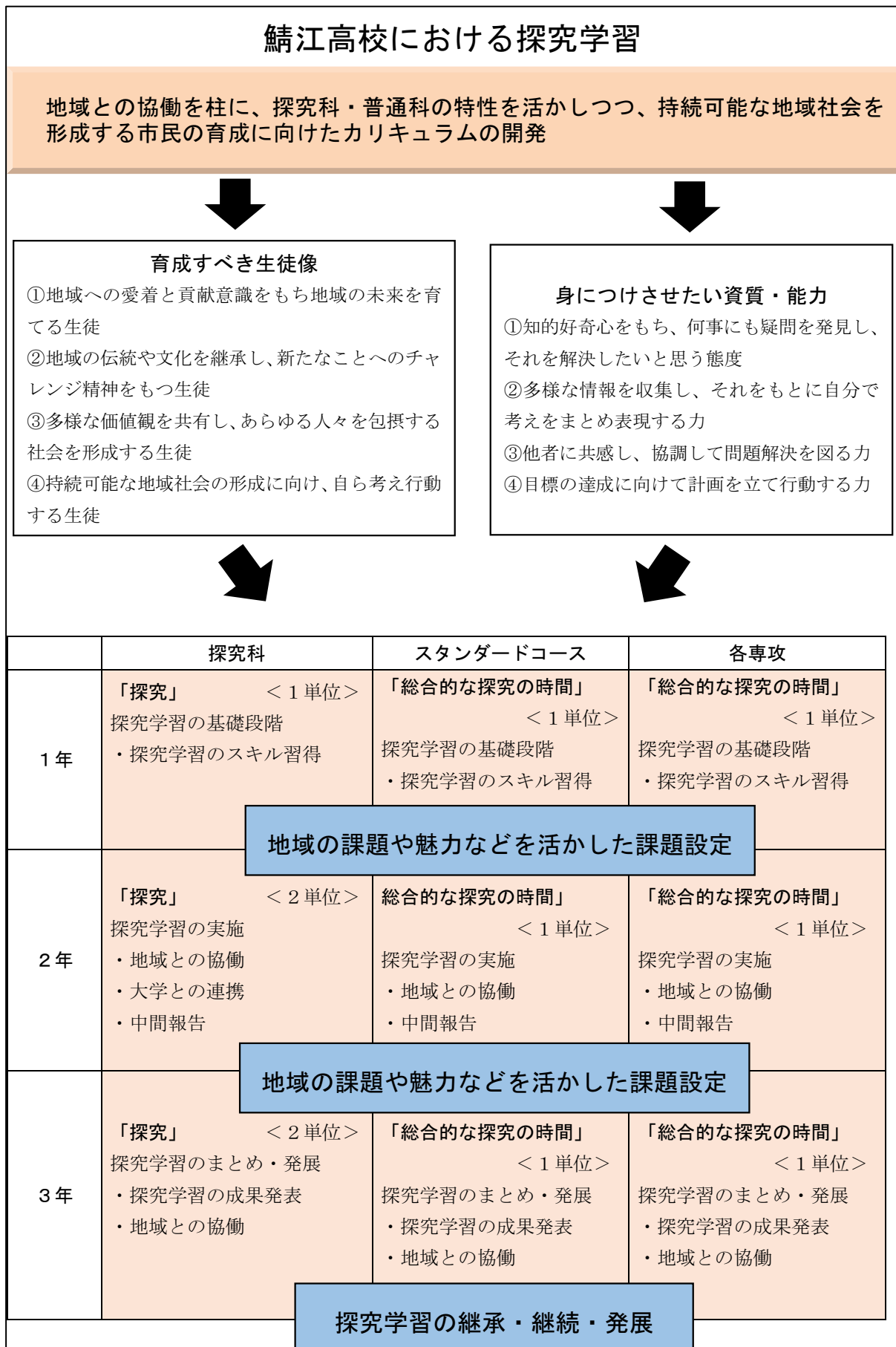
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	539	551	522	591	
本事業対象生徒数			522	591	
本事業対象外生徒数			0	0	

研究開発のロジックモデル



地域協働事業組織図





今年度の具体的な取組み

1年 探究科「探究」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和2年度 第1学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立鯖江高等学校 全日制 課程 探究 学科

名 称	探究	単 位 数	1	
月日	学 習 活 動		授業時数 (分)	学習形態
6/10	探究学習に関するオリエンテーションとエンカウンター		50	グループ活動
6/12	対話を促す環境づくり		50	グループ活動
6/19	ナンバリングとラベリングを使ったスピーチの練習		50	ペア活動
6/26	探究学習の振り返りをポートフォリオに記録		50	個人活動
7/3	ブレインストーミングとKJ法を活用したアイデアの整理		50	グループ活動
7/10	ウェビングマップを活用したアイデアの整理		50	グループ活動
7/30	新聞記事の読み比べを通じたメディアリテラシーの育成		100	個人・ペア活動
8/3	インタビューの方法		100	個人・ペア活動
8/17	鯖江市の企業との交流会		150	一斉受講・個人活動
8/24	学校祭計画		50	一斉活動
9/18	文理分けに関する講演会		50	一斉受講
9/23	SDGsの基礎知識		50	グループ活動
10/9	交通安全教室		50	一斉受講
10/21	防犯教室・情報モラル講演会		50	一斉受講
10/29	薬物に関する保健講話		50	一斉受講
10/30	福井県や鯖江市の将来像を考える		100	グループ活動
11/6	大学模擬授業		150	一斉受講
11/20	課題研究の進め方と問いの立て方に関する特別講義		50	グループ活動
12/4	課題研究の研究手法に関する特別講義		50	一斉受講
12/16	2年次から始まる課題研究のテーマ決め		50	個人活動
1/15	課題研究の問いの検討・先行研究調べ		50	個人活動
2/5	大学模擬授業		100	一斉受講
2/12	鯖江市の取り組みに関する特別講義		50	一斉受講
2/17	課題研究の問いの検討・先行研究調べ		50	個人活動
2/19	課題研究の問いの検討・先行研究調べ		50	個人・グループ活動
3/16	課題研究の問いの検討・先行研究調べ		50	個人・グループ活動
3/18	課題研究の問いの決定		50	個人・グループ活動

1年 普通科「総合的な探究の時間」の取組み
 実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和2年度 第1学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立 鯖江 高等学校 全日制 課程 普通 学科

名 称	総合的な探究の時間	単 位 数	1	
月日	学 習 活 動		授業時数 (分)	学習形態
6/10	探究学習に関するオリエンテーションとエンカウンター		50	グループ活動
6/12	対話を促す環境づくり		50	グループ活動
6/19	ナンバリングとラベリングを使ったスピーチの練習		50	ペア活動
6/26	探究学習の振り返りをポートフォリオに記録		50	個人活動
7/3	ブレインストーミングとKJ法を活用したアイディアの整理		50	グループ活動
7/10	ウェビングマップを活用したアイディアの整理		50	グループ活動
7/30	図書室の書架探検		50	個人活動
7/30	地元鯖江に関連した新聞記事の読解		50	個人活動
8/3	新聞記事の読み比べを通じたメディアリテラシーの育成		100	個人・ペア活動
8/5	進路講演会		50	一斉受講
8/24	学校祭計画		50	一斉活動
9/18	文理分けに関する講演会		50	一斉受講
9/23	「20年後の自分」についてのウェビングマップの作成		50	個人・ペア活動
10/9	交通安全教室		50	一斉受講
10/21	防犯教室・情報モラル講演会		50	一斉受講
10/23	SOSの出し方		50	一斉受講
10/29	薬物に関する保健講話		50	一斉受講
10/30	福井新聞社の記者による特別授業		100	一斉受講・グループ活動
11/6	大学訪問		150	一斉受講
11/13	新聞記事のテーマ設定		50	個人活動
11/20	インタビューの質問を考える		50	個人・グループ活動
12/4	新聞記事の情報収集		50	個人活動
12/16	インタビューの質問の練り直し		50	個人・グループ活動
1/15	新聞記事づくり		50	個人活動
1/29	新聞記事づくり		50	個人活動
2/5	大学模擬授業		100	一斉受講
2/12	鯖江市の取組みに関する特別講義		50	一斉受講
2/19	新聞記事づくり		50	個人活動
3/16	新聞記事づくり		50	個人活動
3/18	新聞記事の読み合い		50	グループ活動

2年「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和2年度 第2学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立 鯖江 高等学校 全日制 課程 普通 学科

名 称	総合的な探究の時間	単位数	1
月日	学 習 活 動	授業時数 (分)	学習形態
6/10	オリエンテーション	50	一斉受講
6/12	SDGsカードゲーム	50	グループ活動
6/19	SDGsに関する探究学習のテーマ設定①	50	グループ活動
6/26	SDGsに関する探究学習のテーマ設定②	50	グループ活動
7/3	SDGsに関する探究学習①	50	グループ活動
7/10	SDGsに関する探究学習②	50	グループ活動
7/30	SDGsに関する探究学習③④	100	グループ活動
8/3	SDGsに関する探究学習⑤⑥	100	グループ活動
9/18	SDGsに関する探究学習⑦	50	グループ活動
9/23	KP法によるプレゼンテーションの練習	50	個人・ペア活動
10/9	進路講演会	50	一斉受講
10/21	防犯教室・情報モラル講演会	50	一斉受講
10/23	発表資料作成①	50	グループ活動
10/29	薬物に関する保健講話	50	一斉受講
10/30	発表資料作成②	50	グループ活動
11/6	大学模擬授業	150	グループ受講
11/13	発表練習	50	グループ活動
11/20	SDGsに関する探究学習発表会	50	グループ活動
12/4	SDGs啓発ポスター作り①	50	グループ活動
12/16	SDGs啓発ポスター作り②	50	グループ活動
1/15	SDGs啓発ポスター作り③	50	グループ活動
1/29	SDGs啓発ポスター作り④	50	グループ活動
2/5	3年生担任講話	50	一斉受講
2/12	SDGs啓発ポスター作り⑤	50	グループ活動
2/19	SDGs啓発ポスター作り⑥	50	グループ活動
3/12	SDGs啓発ポスター作り⑦⑧	100	グループ活動
3/15	SDGs啓発ポスター発表練習①②	100	グループ活動
3/16	SDGs啓発ポスター発表①②	100	グループ活動

地域の方々にご協力いただいた活動

1年探究科「探究」

8月17日（月） 鯖江市の企業との交流会

交流企業 （株）シャルマン
（株）白崎コーポレーション
（株）フクオカラシ
（株）ポストンクラブ
（株）ヨシケイ福井

内容 地域協働ニュース第5号を参照

10月30日（金） 福井県や鯖江市の将来像を考える

講師 福井県未来戦略課 岩井 渉 氏
伊藤 秀馬 氏

内容 地域協働ニュース第6号を参照

11月10日（火） 夢を育て未来を築く教室

講師 伊藤忠商事株式会社 名誉理事 小林 栄三 氏

内容 地域協働ニュース第8号を参照

11月20日（金） 課題研究の進め方と問いの立て方に関する特別講義

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授

内容 地域協働ニュース第9号を参照

12月 4日（金） 課題研究の研究手法に関する特別講義

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授
江南 健志 准教授

内容 地域協働ニュース第12号を参照

12月14日（月） 2030SDGsカードゲーム体験

講師 エコネットさばえ 榎原 秀典 氏

内容 地域協働ニュース第13号を参照

2月12日（金） 鯖江市の取り組みに関する特別授業

講師 前鯖江市長 牧野 百男 氏

内容 地域協働ニュース第14号を参照

3月16日（火） 課題研究の問いの検討・先行研究調べ

3月18日（木） 課題研究の問いの決定

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授

内容 生徒が取り組んでいく課題研究について、それぞれの課題に対する「問い」について助言・指導をしていただいた。

1年普通科「総合的な探究の時間」

10月30日（金） 福井新聞社の記者による特別授業

講師 福井新聞社 藪内 弘昌 氏

徳島 康彦 氏

内容 地域協働ニュース第7号を参照

冬休み～2月 新聞記事づくりのためのインタビュー

インタビュー対象 鯖江市役所, 鯖江商工会議所 他

内容 地域協働ニュース第20号を参照

2月12日（金） 鯖江市の取り組みに関する特別授業

講師 前鯖江市長 牧野 百男 氏

内容 地域協働ニュース第14号を参照

2年「総合的な探究の時間」

11月20日（金） SDGsに関する探究学習発表会

コメンテーター 鯖江市役所

齋藤 邦彦 氏

服部 聡美 氏

さばえSDGs推進センター 関本 光浩 氏

仲倉 由紀 氏,

内容 地域協働ニュース第10号を参照

3月16日（火） SDGs啓発ポスター発表会

コメンテーター 鯖江市役所

齋藤 邦彦 氏

服部 聡美 氏

さばえSDGs推進センター 仲倉 由紀 氏

川口 サマンサ 氏,

内容 地域協働ニュース第18号を参照

各教科・部活動での取組み

6月26日（金） クッキング部 地元テレビ生放送で吉川ナスのアレンジレシピ公開

取材先 FBCテレビ

内容 地域協働ニュース第2号を参照

7月31日（金） 地理の授業での野外活動

講師 株式会社 田中地質コンサルタント 代表取締役 田中 謙次 氏

内容 地域協働ニュース 号外を参照

2月10日（水） 音楽の授業での人形浄瑠璃体験

講師 近松座 大橋 國利 氏 他, 計7名

内容 地域協働ニュース第15号を参照

2月17日（水） 音楽の授業での民族楽器音楽体験

講師 アマチュア演奏集団「轟音」メンバー 森眞 一郎 氏

内容 地域協働ニュース第16号を参照

3月18日（水） 現代社会でのジェンダーに関する特別授業

講師 さばえSDGs推進センター 川口 サマンサ 氏

内容 地域協働ニュース第19号を参照

その他の校外活動

8月 3日（月） 課題解決型学習モデル開発事業中間報告会への参加

課題解決型学習モデル開発事業は、2018年から福井県教育委員会により県内6校（丸岡高校、羽水高校、勝山高校、敦賀高校、若狭高校、鯖江高校）が参加して3か年計画で行われているものであり、今回の中間報告会では本校から2名の生徒が参加した。なおこの報告会は、次の週に行われた「生徒国際フォーラム」のリハーサルも兼ねていた。

8月12日（水）・13日（木） 生徒国際フォーラムへの参加

詳細は地域協働ニュース第4号を参照

2月 8日（月） 課題解決型学習モデル開発事業成果報告会への参加

本校から2年生の4グループが参加し、それぞれがこれまでの取組みの成果を発表した。またワークショップでは他校の生徒ともディスカッションし、交流を深めた。

教員研修会

7月20日（月） 鯖江を知ろう

講師 NPO法人エル・コミュニティ代表 竹部 美樹 氏

内容 地域協働ニュース第3号を参照

11月25日（水） 2030SDGsカードゲーム体験

講師 エコネットさばえ 榎原 秀典 氏

内容 地域協働ニュース第11号を参照

2月12日（金） 元市長と語る会

講師 前鯖江市長 牧野 百男 氏

内容 同日に生徒向けに行った講演会と同じものを、放課後に教員向けに講演をしていた。詳細は地域協働ニュース第14号を参照

打合せ・協議など

4月～ 教員研修などに関する助言・アドバイス

カリキュラム開発等専門家（木村 優 氏）とメールを利用し、教員研修会の計画立案などについてご指導をいただいた。

6月23日 今年度の実施計画について打ち合わせ

地域協働学習実施支援委員（竹部 美樹 氏）と、今年度の実施計画について、打ち合わせを行った。

8月12日（水）・13日（木） 生徒国際フォーラムへの生徒の参加について

生徒国際フォーラムへ参加に関して、木村 優 氏にご指導・ご助言をいただき、生徒にあったグループを考慮していただくなど、生徒が参加しやすい環境を整えていただいた。

9月 鯖江市、商工会議所へのアンケート

コロナ禍で連携協議会が実施できない状況であったため、アンケートをとり、鯖江高校に求めるもの（学校像、生徒像など）や期待していることを調査した。

11月25日（木） 鯖江市役所との打ち合わせ

SDGsカードゲームの教員研修が行われる前に、鯖江市役所の担当者と、これまでの報告や今後の活動について打ち合わせを行った。

12月10日（木） 地域探究カンファレンスでの協議

木村 優 氏をファシリテータとして、課題解決型学習モデル開発事業に参加している6校をオンラインで接続し、地域探究の在り方などについて、各校の現状報告や意見交換などを行った。

仁愛大学と鯖江高校との高大連携・高大接続に関する協定書締結

2月26日（金） 詳細は地域協働ニュース17号を参照

運営指導委員会

第1回運営指導委員会

日時 11月20日（金）

13:05～13:55（5限目） 公開授業（1・2年の総合）

14:10～15:30 運営指導委員会

第2回運営指導委員会

日時 2月19日（金）

13:05～13:55（5限目） 公開授業（1・2年の総合）

14:10～15:30 運営指導委員会

議事録

令和2年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 第1回 運営指導委員会 議事録

- 1 日時 令和2年11月20日(金) 14:10 ~ 15:30
- 2 場所 鯖江高等学校 視聴覚室
- 3 参加者 佐川 哲也 金沢大学地域創造学類長
田中 謙次 福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦 鯖江市産業環境部長
(欠) 澤 和広 鯖江市中学校長会長
(欠) 齋藤 多久馬 鯖江市社会福祉協議会 会長
大正 公丹子 福井県教育庁 高校教育課 参事
山田 寛之 福井県教育庁 高校教育課 主任
(欠) 福嶋 洋之 校長
川畑 順一 教頭
渡辺 康仁 教務部長
中山 孝士 進路指導部長
山田 雅彦 地域協働推進事務局長
山田 繁 地域協働推進事務局員
千葉 章代 地域協働推進事務局 書記

4 内容

(1) 教頭挨拶

昨年度に引き続き、今年度も多くの取組みを進める予定だったが、新型コロナウイルスの影響もあり、昨年度ほどの取組みは進められていない現状である。しかし、3ヶ月間の休校の後、生徒の健康管理を徹底し感染防止を念頭に教育活動を進め、現時点では休校による遅れは取り戻した状況と考えている。

丹南地区高等学校再編事業がこの春スタートし、新体制のもと、様々な目標・特技・考え方もつ生徒が切磋琢磨しながら寛容・共生の精神で様々なことに挑戦している。生徒自身の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、今年度の1年生から「総合的な探究の時間」を改めて設計し直して取り組んでいる。

委員の皆様より、様々な視点からご指導を頂きたい。

(2) 県教育委員会挨拶

コロナ禍の大変な中での運営指導委員会開催、そして皆様の参加に感謝する。

昨年度は初年度の取組みに対する様々なご意見を運営指導委員の皆様から頂戴したと伺っている。今年度は新型コロナウイルス禍の中で、また新しい生活様式の中での研究が求められているが、鯖江高校では今年度より新しく探究科が設けられ、授業改善と更なる地域との連携による探究活動を模索していると聞いている。県教育委員会としても、鯖江高校の研究成果に多いに期待している。

運営指導委員の皆様には今後の研究開発のために、ご指導・ご助言を頂きたい。公開授業や概要報告等を踏まえ、生徒の学びまたは研究について、忌憚のないご意見を頂ければ幸いに思う。

鯖江高校には本日のご意見を参考にし、今後の研究開発が一層充実したものになるよう、地域人財育成の一助になるよう祈念する。

(3) 出席者紹介

(4) 概要報告

- ・今年度のこれまでの取組みについて
- ・今後の予定について
- ・今後に向けて

別紙参照

(5) 運営指導委員からの指導・助言

〈佐川氏〉

大学では、教科に縛られず学生は学びたい教科を自由に選び学ぶことができる。しかし高校までは、教科が非常に重要で、特に進学校では大学の入試に向けて用意されたものをどれだけ学ぶか？それを記憶してどう引き出すか？にかかわってくる。その中で、今日の公開授業の教科は、主要教科ではない「総合的な探究の時間」だったが、新聞の話やSDGsや西出先生のお話などを、先生方がどんな狙いをもって用意されたのか？後ほどまた補足願いたい。

学力の三要素として、「①基礎的な知識・技能」が先ず重要とされ、これまで試験の内容になっていた。次に、考え判断しどう表現するかという「②思考力・判断力・表現力等の能力」、そして主体的に学ぶという力「③主体的に学習に取り組む態度」が挙げられる。これら三要素の中の、②と③の学力の習得において、総合的な探究の時間は非常に重要な意味を占めていると改めて確認した。教科書から学ぶというスタイルでは探究活動はできない。今日の授業では、生徒自らが課題を見つけ学んでいくというスタイルができていて、アクティブラーニングそのものがどの教室においても展開され、“生徒が授業をつくっている”と感じた。

これまでは、生徒が教室の中で先生にリードされながら手を挙げて答えたり、役割を演じながら学んできたと思うが、今日の授業では、自分たちが考えたストーリーをもって主体的

に学んでいる姿を見ることができた。このことは大変に重要で素晴らしいことだと感じている。

この探究の授業は「学ぶ」ということを定義し直す優れた授業になっている。国語や数学とは違って、生徒自身が授業をつくっているということを上手く生徒に伝えてほしい。

生徒の中には、答えを急ぐ部分があるかもしれない。新聞で課題をみつけたときに、答えは一つではない、正解が一つではない、発表をして終わりではなくそこから始まる、ということを経験的に学ばせる工夫が今後にも必要になる。

探究活動は、実社会に出てからの、暮らしや働くということや生きる力、様々な学びとつながっていて、入学試験をパスした先の大学でどう学ぶか？それらのトレーニングができていると感じた。

〈田中氏〉

肌感覚として、昨年度より数段ランクアップしている雰囲気を感じた。発表の声が相変わらず小さかったりはしたが、生徒の考え方や授業に対する取組みが大変に向上している。

“考え方の考え方” そういうものを伝えることはとても大事だと、授業を見て感じた。そこが弱いと調べ学習をしても「考え方が分からないから考えられない…」というループに陥り、問題の解決として、広報はSNS、関心をもった人が資金を払うなど、短絡的な手段を選んでしまう。今後考え方の掘り下げが大切になってくると思う。何が問題で、その問題をどういう手段で解決するか？常にその思考をもつことをトレーニングさせることが重要である。

昨年、インターンシップやアルバイト感覚で、地元の企業に入ったらどうか？提案したが、地域に入っていくことで直面する課題が浮き彫りになり、より深い部分で解決策を模索することができる。地域課題解決に当てる時間がなかなか作れないと思うが、放課後活動として一週間に一時間でも半年間続けてみるなど、長期スパンで部活動感覚で企業に入っていけたら、新しい改革の一つになる。受け入れ可能な企業は多くあると思う。

生徒が外に飛び出して地域を見つめる、新しい考え方を植え付けられることによって生徒の取り組む姿勢が強化される、そして帰って来たときに、より幅広く深く考え問題解決に挑戦することができる。この論理のもと、どんどん外に飛び出してほしい。

色々なフォーラムに参加したり、大会に挑戦したりの活動は、大変に素晴らしい。根こそぎ出場すると良いと思う。他社評価を受けることは自己肯定感につながり、生徒の血肉になる。

〈宮本氏〉

今日の西出先生の授業は、これから探究科が前に進んでいく上で非常に良かった。自分の学生時代を振り返ると、ゼミや卒論で“自分で調べていく”ということが一番面白かった。大学でも社会に出てからも“疑問があったら調べる”その繰り返しだと思うが、その導入部分として、総合的な探究の時間はとても効果的だと感じた。

鯖江市では、ものづくり博覧会を毎年開催しているが、今年はコロナ禍で中止となり、その代わりに鯖江市 JK 課の職員が、鯖江市内の眼鏡・漆器・繊維、様々な企業取材し、バーチャルファクトリーツアーリズムと名付けて動画配信を行っている。その動画を鯖江市内の中学生に見せたところ、興味をもった生徒が 8 割を占めた。しかし、鯖江市内の企業に就職したいか？という問いには 7 割の生徒が就職したくないと答えた。「めがねのまちさばえ」を全国に発信はしているが、まだまだ鯖江の中で鯖江の産業が根付いていない、地元の学生は職業的に興味関心をもっていないという残念な結果となった。今後の教員研修などで、眼鏡会社などの話しを先生方にも十分に聞いてもらえるとありがたい。

鯖江高校が商工会議所で行ったような取組みは素晴らしいと思う。県外に出ても自分たちが鯖江出身であることに誇りをもってもらいたい。そして鯖江の産業に興味関心をもってもらいたい。

前回人権の話しをしたが、大学・社会に出てから多様性をもった人たちとの関わりは多くあると思う。今後、人権問題に関する授業も充実させてほしい。医療関係者への差別発言などが問題となっているが、これだけ多様性のある社会の中で、何故そのような問題が出てくるのか？問題意識をもつ幅広い視点をもった人間を育てて頂きたい。

〈大正氏〉

学校と地域、お互いどれだけ心を開けるかで生徒の学びが変わってくると感じる中、地域も大変に協力的で、生徒が積極的に地域に出ていく姿が素晴らしい。今後更に深めていくと、また良い成果が出るだろうと期待する。

探究活動は担任の先生が指導していると思うが、全部のクラスで一斉に活動するとき、何を指導するのか？先生方の共通理解ができていて素晴らしい。教員研修会など開いてしっかりと共通理解を深めているのだろうと感じた。

気になったところは、やることに重点をおきすぎて、最終的な目標が見えなかった。どこをどう評価し、次の道筋につなげるのかの最終目標を次回見せて頂きたい。

今活動していることは、文科省の「社会に開かれた教育課程の実現」という目標につながっており、最終的には全ての学校に広めていきたいと考えている。大変だとは思いますが、これからも積極的に取り組んで頂きたい。

先の佐川氏の質問について

Q. 今日のパブリック授業「総合的な探究の時間」は、どんな狙いをもって用意されたのか？

A. 1 年生の普通科は 2 年次から始まる本格的な探究活動をする上で、地域の方にインタビューをしたりなど、地域との関わりを体験する狙いをもっている。次年度の学習の前段階として、聞いたことをどう表現するか？などを学習する。

探究科では、次年度より探求時間が 2 倍になるため、4 月のスタート時から普通科とは切り離して、課題設定の仕方など前倒しでメニューを組んでいる。

2年生は、地域に入っていったの探究活動を企画していたが、コロナの影響で難しくなり、予定を変更し、鯖江市 SDGs に関する探究活動をスタートさせた。

〈佐川氏〉

新聞という材料は、広がりがあるが大変に良い。自分が考えるということと、成果を人に還元するという要素がある。“取材をし、記事を作り、そして伝える”その技術は単に学びではなく、正確に伝えることの大切さを実感し、記事が人を感動させ笑顔にさせ地域の中に話題を作り出すといった力をもっていることを体感することができる。

“問題をたて・調べ・考え・答えを出し・伝える”そのプロセスは、研究と学びの一致度が高く、研究と学びがつながっていることがわかる。

成果報告には、成果として分かりやすい報告のほか、先生たちがどう悩んだか？先生たちのものがき苦しみを伝えるのも重要かもしれない。裏方を見せるのも今後の広がりという点でとても良い。今年度、先生たちが相当練り込み工夫した後が見られる。

SDGs のための教育、ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)も非常に重要で、今後 ESD への関心をもつと良い。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」が、最初は地域と連携して学ばせることでスタートしたが、学びの場所は学校だけではない。地域でも学ぶし高校でも学ぶ、教室が広がっていると捉える、そういう授業に展開していけると良い。

“暮らしと生業が地域”と理解すると、暮らしと生業について高校生として学ぶ、そんな授業展開もあるのではないかと思う。高校生自身の暮らしや、家族の暮らしをどうするか？将来のことを考えると職業人としてどうやって生きていくか？様々なことを高校生の時期に高校生として学ぶ。とても広がりがある事業なので、3年度を見据えながらの活動展開に期待している。

〈田中氏〉

ユーザーがもっている問題を察知し、SDGs の論理に当てはめて解決していくのが開発目標であり、SDGs を学ぶことは、ゴールではなくスタート、問題をどうやって解決するか？そこからの発展を望んでいきたい。

今日の高大連携授業には大変感銘を受けた。生徒の学ぶ姿勢なども大変よく、是非また深めると良い。企業との連携もまた進めていってもらいたい。

(6) その他

- ・令和3年2月ごろに第2回運営指導委員会を開催予定

令和2年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第2回 運営指導委員会 議事録

- 1 日時 令和3年2月19日(金) 14:10 ~ 15:30
- 2 場所 鯖江高等学校 視聴覚室
- 3 参加者 (欠) 佐川 哲也 金沢大学地域創造学類長
田中 謙次 福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦 鯖江市産業環境部長
澤 和広 鯖江市中学校長会長
(欠) 齋藤 多久馬 鯖江市社会福祉協議会 会長
大正 公丹子 福井県教育庁 高校教育課 参事
山田 寛之 福井県教育庁 高校教育課 主任
福嶋 洋之 校長
川畑 順一 教頭
渡辺 康仁 教務部長
中山 孝士 進路指導部長
山田 雅彦 探究研究部長
山田 繁 探究研究部 地域協働担当
千葉 章代 探究研究部 書記

4 内容

(1) 校長挨拶

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため新しい生活様式での活動が求められるなか、授業進度の確保などもあり、予定していた全てを実施することができなかつた。しかし、多方面からのご指導・ご協力のもと一定程度活動ができ、大変ありがたく感じている。

特に今年度は、世界的な「SDGs」に対する意識向上を踏まえ取り組むことができた。「さばえSDGs推進センター」が設置されたこともあり、生徒も教師も様々な学習をさせていただくことができた。関係の皆様には改めてお礼申し上げます。

また、丹南地区高等学校再編事業1年目を無事に終える見通しとなった。各課程・学科・コース・専攻の生徒が混じり、様々な目標・特技・考え方をもつ生徒が切磋琢磨しながら寛容・共生の精神で様々なことに挑戦していくことを願っている。

いよいよ来年度は事業実施の最終年度となる。この活動による生徒の変容を改めて評価するとともに、この成果を県内はもとより全国へ発信することが使命であると心得ている。そのためにも、今年度の活動に対し忌憚の無いご意見を賜り、最終年度の活動・運営の設計に努力していきたい。

(2) 県教育委員会挨拶

運営指導委員の皆様にはご多忙の折参加いただき、また鯖江高校の先生方にはコロナ禍の大変な中ご苦労もある中で活動を展開していただき感謝する。

前回の運営指導委員会では委員の皆様から沢山の貴重なご意見を頂戴した。鯖江高校の方ではそれらのご意見を踏まえ、課題解決に取り組んでいる。生徒たちが地域社会に関わりながら、具体的に考える力や問題解決をする力、自分の考えをまとめて表現する力などを培っている。

県教育委員会としても、鯖江高校の研究成果に多いに期待しており、今後他の学校へ活動を普及していただきたいと考えている。

運営指導委員の皆様には前回同様、今後の研究開発のために、忌憚の無い色々なご意見ご指導をいただきたい。鯖江高校においては、これらのご意見ご指導を参考に、最終年度に向けて研究開発が益々発展するよう祈念する。

(3) 概要報告

- ・今年度のこれまでの取組みについて
- ・アンケート結果の分析
- ・次年度(最終年度)に向けて

別紙参照

(4) 運営指導委員からの指導・助言

〈田中氏〉

4回目の参加となるが、回を増す毎に生徒の取り組む姿勢が向上している。プログラムも申し分なく、生徒の変化が感じられる。

Zoomを活用したインタビューでは、皆が下を向いてメモを取っていて残念だった。Zoomでのコミュニケーションは難しいが、相手の目を見て心で話しを聞いて欲しい。そうすることで情報がどんどん下りてくる。会話は録音して後で聞き直せば良い。

テーマは良くても、話しをすることや話しを聞くことに慣れてないと感じた。行間を含めて聞き、聞く側がどんどんと情報を引き出すことが重要である。

課題設定が面白いと感じる一方、普段の生活にないところに課題をおき、グローバル過ぎるのではないかと感じた。大学ではなく高校なので、身近なところから問題を探す活動をすると思う。また、保育士や看護師関連が多いのは、知っている世界が狭いためだと考えられる。より多くの様々な職業活動を知ることが大事である。地元に入って地元を肌で感じてもらいたい。

【二十歳の環境活動家 露木 志奈(つゆき しいな)氏の紹介】

横浜中華街生まれ。バリのグリーンスクールを日本人で初めて卒業した。日本の中学校を卒業後、英語を学ぶため単身インドネシアに渡り“世界一エコな学校”と呼ばれるグリーンスクールに通う。この学校はジャングルの中にある竹で出来た校舎で「持続可能な世界をつくるリーダーを育てる」をコンセプトに掲げている。そこで過ごした日々が今の活動につながっている。

今大学で学ぶことよりこの世代で環境活動をするのが大事だと考え、2020年9月から慶応義塾大学を休学し、気候変動をテーマに環境活動を行っている。世代が近いから伝わり易いと考え、全国の学校で講演を行っている。

20世紀に起きた多くの市民活動を調査した結果、非暴力的なムーブメントは賛同する人がその集団の3.5%に達したとき成功するケースが極めて高いという研究結果より、彼女もこの活動を一過性ではなく、きちんとしたムーブメントにしていきたいと考え、日本の中高生600万人のうち3.5%にあたるおよそ21万人に伝えることを目標に活動している。

Sustainable business magazine alterna ～オルタナ～ より

旅費交通費のみで無料で講演をしてくれると言ってくれているが、謝礼も考えて是非福井に来てもらいたい。藤島高校が是非にと興味をもっているので、鯖江高校も含めて3～4校と、それから県内の企業も交え時期を合わせ、2泊3日位で来福し講演してもらいたいと考えている。

妹の肌が弱く、化粧品のオリジナルブランドを立ち上げている。行動を起こし実際にSDGsをやっている彼女の講演を聞いて、自分もアクションを起こそう！思ってもらいたい。

〈澤氏〉

Zoomを使ってのインタビューは、今後中学校でも活用していきたい。

小・中学校で地域にかかわる学習をするなかで、地域が活性化するために何をすべきか？という問題に取り組んできた。目標が高いのでは？という話があったが、小・中学校でのふるさと教育を経て、高校では目標レベルを高くすることを生徒が意識しているのかとも感じた。

テーマ設定の部分から講師を招いて丁寧な指導があって、大変に素晴らしい。実際携わっている専門家の言葉は貴重で、色んな視点からの考え方を学ぶことができ、価値観が広がり新たな学びにつながると思う。

生徒が社会的な問題に目を向け、そして取組みについて考える機会を与えてもらっていることは、将来に確実に繋がっていると感じる。中学校でも是非参考にしたい。

〈宮本氏〉

答えのない問いに挑み続けるのが探究科であるが、小・中学校の時に自分で調べて自分で答えを見出すことに飢えている生徒が多く、鯖江高校の探究科を目指す生徒が多くなり倍率が高いのかとも感じた。

教室の中での学習だけでなく、身近なところに出ていくということが生徒の身になっている。色んな人の話を聞いて自分で答えを見出すことが、延いては社会貢献につながり、社会の役に立つ人材に育つと感じた。

探究活動を続ける生徒は将来が有望で、探究科は人間にとって必要な教科、是非続けていていただきたい。

〈大正氏〉

聞く力が不足しているのご指摘があったが、加えて伝える力も不足していると感じた。発表の仕方の問題があり、今後指導が必要である。ポスターのデザインや新聞のレイアウトについて、面白い材料が多くあるものの表現の仕方に躓きを感じた。ポスターには全部の事柄を入れるのではなく、大事なところを絞ることで相手に伝わり、アートの部分も大切である。国語の時間も活用して伝え方の文章の作り方など、横断的に授業を行っていくと効果的だと思う。相手にきちんと伝わったことで満足感が得られ、達成感が生まれる。

次年度に向けて、ものをつくって終わりにしないよう、研究の最終的な目標は、持続可能な鯖江を形成する市民の育成なので、つくる過程でどのような力が必要かに目を向けて、成果物より過程を大事にしていきたい。

〈田中氏〉

Q. シラバス授業計画的には3年目も1~2年目と似た様な形で、ゲストを呼んで進めていく予定か？

A. 教科でのイベントなどをもっと増やしていきたいと考えている。総合的な探究の時間では地域の方に月に1回来ていただくなど、より地域の方とかかわる機会を増やしていきたい。

2年生の探究科は、自分の課題研究を進めていくなかで企業とつなぐなどの機会を増やし、普通科でも成果物をつくるときに、各企業の方の話しを聞くなどの機会を増やしていきたいと考えている。カリキュラムを変えていきながら、次年度以降も続けていきたい。

〈田中氏〉

Q. 問題設定・課題解決が自分ごとになっていないと感じた。自分ごとになると、用意してある質問に答える一問一答ではなく、自分の言葉でより深い話し合いができる。自分ごとになるための戦略として、ファシリテーターを入れて問題解決に向けて舵を取るなどしてはどうか。授業という短い時間の中で如何に活動するかが鍵となる。ネットに頼らず頭を使うことも大切である。

A. 校外の方に来てもらうより、生徒が可能な限り外に出たいと考えている。探究科は次年度以降、探究の時間が2時間取れているため、放課後延長を含めて外に出易くなる形を企画している。

〈田中氏〉

Q. 例えば、歴史の道で問題設定・課題解決を試みるなどしてはどうか。季節や利用者の年齢、時間帯などによって色んな問題が潜んでいると思う。フィールドが近いところで気楽に考えてみると、自分ごととして、SDGsをベースに解決していく事柄が多くあると思う。先ずやってみることが大切である。

A. 他学校の発表などを見聞きしても、自分ごとになってないから、調べて終わり・発表して終わりということが往々にして起こっていると感じる。来年度はものをつくるイベントを企画するなど、過程を大切に、そして目に見える成果を示して自分ごとにしていきたい。

〈田中氏〉

SDG s はベーシックであって、SDG s のために何かやるのではない。SDG s にこだわって課題設定をすると、自分ごとから離れてしまう。SDG s は常に心の中にあるもので、自分ごとの問題解決に挑むなかで、気が付いたらSDG s だったというものである。これからの産業や生活のベース全てがSDG s である。

〈校長〉

タブレットを昨年末 660 台入れていただいた。今後どんどん活用して、学校全体あらゆる授業で文房具になるようにしていきたい。ネット環境を整えて、どんな風に活用していくのか、我々も研究していく必要がある。地域協働と合わせて色々なタイミングで活用させていただきたいと考えている。

〈田中氏〉

欧米と徐々に肩を並べる教育システムに整ってきている。しかし、デジタルに頼り過ぎて伝わらなくなることもあり、アナログも上手く取り入れていってもらいたい。オンラインとオフラインをバランスよく使うことで秀でた高校になっていくと思う。

〈校長〉

来年度第一回運営指導委員会時に、生徒の発表会を行いたいと考えている。探究科の課題研究や、普通科の様々な地域とつながった課題研究を発表することで、我々が2年半かけて活動してきたことを公開したい。

来年度探究科では探究の時間を2単位設けている。課題研究をメインにおきSSH校でやっているようなことをさせたいと考えている。普通科では、地域と結びつき様々な活動をし、そして発信していきたい。専門コースでは、学んでいることをどのように社会に還元できるか、どのように社会と結びつけるかを考えている。例えば小学生や中学生に様々な教室を開くなどの活動をしていきたい。スポーツでは体操教室、ITではプログラム教室、デザインでは絵画教室など、小学校・中学校・そして大学や一般社会人、地域全体とつながれるような発信をしていきたい。

丹南高校が令和4年度に閉校された後、キャンパスの施設・設備をどのように活用するか未定ではあるが、そちらをベースに色々な形で広がりをもって地域とつながっていききたいと考えている。

中学校や企業・鯖江商工会議所など、多くの方々の力添えをいただきたい。

事業最終年度となる来年度、様々な発表会や成果物を発信することで、我々の取組みを知ってもらいたい。コロナウイルス感染症が心配ではあるが、来年度少しでも落ち着いて、校外の方に来ていただいたり生徒が外に出たりが今年度より快方に向かうことを祈念している。

引き続き来年度もご指導・ご支援をいただけるとありがたい。

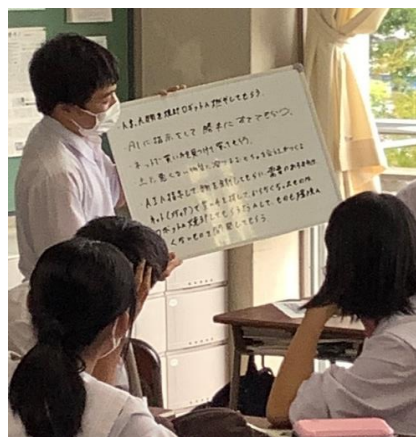
「オールSABAE」始動 ～総合的な探究の時間～

SDGs をカードゲームで知る (2年生)

6月10日、2年生の総合的な探究活動のテーマは「SDGs」。
2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が
2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標で
す。日本でも「アクションプラン」が策定され、2018年には
鯖江市が31未来都市の一つとして取組みを進めています。

最初「SDGsを知っていますか？」と聞かれて、勢いよく答
える生徒はいませんでした。その後、SDGsの意義や活動の動
画を見て概要をつかんで、実際にグループで課題解決へのアイ
ディアを出し合ってみる活動に入りました。

トレードオフカードとリソースカードの二種類のカードに
より構成された金沢工業大学が開発したカードでゲームをし
ました。トレードオフカードはSDGsの17個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、リソ



グループで考えた課題解決アクションを
全体に紹介する生徒



ソースカードには問題解決のために活用可能なAIやロボットなど
の技術や製品、サービス等のリソースが描かれています。

まず、グループでトレードオフカードを1枚引きます。トレ
ードオフとは、何かを得ることで別の何か失われる状況のこ
とで、SDGsにおいては、特定の社会課題を解決することで新たな
社会課題が生まれてしまう状況を指します。あるグループは、
“3 すべての人に健康と福祉を”を実現しようとして「友達
に煙草をやめさせようとしたら、友達に嫌われてしまいそうに
なった」カードを引きました。

次に「リソースカード」を一人1枚引き、そのカードにある技術やサービスを課題解決にどう生かせるか知
恵を絞ります。グループで意見を統合し
て、課題解決のアイデアを発表しまし
た。解決したい問題に、どう自分のカード
にあるサービスと結びつけるか一生懸命
考える姿や、互いのカードを見せ合っ
て、ほかの使い方はないかと相談し合
う姿などが見られました。発表では、意
外な発想のアイデアもあり、SDGsで
大切なのは、問題に対してどうアク
ションを起こしていくかであり、解
決の糸口は一つではないことを体感
できたようでした。



【生徒の感想から】

- SDGsという言葉は聞いたことがあったが、内容を知ることができた。日本は4しか達成していないと聞いて驚いた。いろいろな視点から解決方法を見つけるのはおもしろいと思った。
- 自分一人では思い浮かばないことも、みんなで協力したらおもしろい案もたくさん出てきた。
- みんなが引いたリソースカードを「私ならこうするかな」などと考えることができた。

クッキング部がテレビに生出演しました

吉川ナスのアレンジレシピ紹介

本校のクッキング部が、地元テレビ局のFBCから、夕方の生番組への出演依頼を受け、6月26日(金)の「おじゃまっテレ」に生出演しました。



クッキング部では、これまでに地元の農産物などを使ったレシピを考えてきてお

り、昨年度は地元の特産品である「吉川ナス」を使った新しいレシピを開発しました。ただ料理のレシピを作るだけではなく、地元農家の方々にもご協力いただき、実際に収穫して吉川ナスの特徴をよく知ったうえで、レシピ開発に取り組んできました。出来上がったレシピをもとに、

地元でビストロ「シトラス」を経営される青柳彰彦さんにも料理指導をしていただき、パスタ、キーマカレー、ドリアの3種類のレシピを完成させました。

今回はFBCが生放送でこれまでの活動を県民に広く知らせたいということで本校にオファーがあり、クッキング部の活動風景が取り上げられました。

生放送ということで、事前の打ち合わせでは時間をかけて話し合い、練習やリハーサルにも熱が入りました。生徒たちだけではなく、顧問や周囲の教員もかなり緊張した状態の中、生放送が始まりました。

いざ生放送が始まると、生徒たちは楽しそうに活動をしており、とても明るい雰囲気の中で料理をし、取材に答えていました。完成した料理はレポーターの方を含め、本校の校長、ALT、運動部員に試食してもらい、とても好評を得ました。そして無事、生放送が終了し、みんな笑顔で取材を終えることができました。

放送終了後には、番組スタッフも含めてクッキング部員全員で試食をしました。とてもおいしかったようで、おかわりして食べてくださる番組スタッフの方もおられました。

テレビの生放送に初めて出演し、これまでにはない多くのことが経験でき、生徒たちはまたひとまわり成長できたようです。



右上「とろ〜りチーズと吉川ナスのキーマカレー」

左下「ごろごろ吉川ナスのチーズパスタ」

右下「ほっぺたが落ちる！？とろうまチキンドリア」

教員研修会が行われました

テーマ「鯖江について」

令和2年7月20日(月), NPO法人エル・コミュニティ代表
竹部美樹氏をお招きし, 教員研修講義が行われました。



「めがねのまちさばえ」統一ロゴを
行政からも民間からも発信し, 鯖江
の知名度が上がっている中,



★国内生産シェア9割を占める「眼鏡産業」

★繊維王国福井の中核を担ってきた「繊維産業」

★1,500年余りの歴史を有し国内の業務用漆器の8割を占める「漆器産業」

この三大地場産業に次ぐ第四の産業として「IT産業」を掲げた鯖江の近年の取組みについて講義していただきました。

世界に展開されるものづくりのまち鯖江と 世界の見本になるまちづくり

市民主役条例のもと, 行政の仕事を市民・民間が主体となって行っていること。行政がもっているデータをオープンにして, 民間がアプリをつくるオープンデータ先進地として注目されていること。「市長をやりませんか?」コンテストの開催で, 全国の学生が提案したプランを行政や民間が積極的に実現させ, 全国に同様の企画が広がっていること。全国に先駆けて, プログラミング教育を学校に導入すると同時に, 地産地消モデルとなっている講師育成にも力を入れていることなど, 色々な鯖江の取組みを一つずつ確認することができました。

さまざまな企業が鯖江にサテライトオフィスを開設する中, 民間団体が空き家利用に立ち向かっていることから, 今の時代は場所に関係なく活躍ができるが, 視野を広げることで更に活躍の場が広がることなど, 教育の現場に直結する内容も盛りだくさんでした。

鯖江モデルは世界へ

経済誌 Forbes JAPAN ランキング 日本を面白くする

「イノベーションシティ」ベスト10では, 全国1,700以上の自治体の中で鯖江市は第四位!! 2015年に出版された「福井モデル」は韓国版が出版され, 韓国からも鯖江に多く視察が訪れていることなど, 鯖江市は今や, 全国のみならず世界から注目されていることに誇りを感じる講義となりました。



講義の最後には色々な感想が飛び交いました。

- ◆ 伝統を守りながら時代とともに新しいことに挑戦し続けているこの鯖江市が, 自然環境をどれだけ美しく残すかという視点も大切に, 生き残れるまちであって欲しい。
- ◆ プログラミングを学び, 世界的視野のもてる子の育成は素晴らしい。
- ◆ 生徒と一緒に答えを探しに行く, 生徒と挑戦していくことが大切だと思った。
- ◆ 講師の姿勢を見習い, 生徒と多くの時間を共有し, 生徒の目線になり, 寄り添い認めることで信頼関係が生まれると感じた。

鯖江の断層を歩こう！

2020☀夏の特別授業

令和2年7月31日(金), 株式会社 田中地質コンサルタント 代表取締役 田中謙次氏に, 昨年到现在夏特別授業を実施していただきました。

今年は鯖江の断層と一緒に歩いていただき, 「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマにした体験学習授業でした。

鯖江の鳥羽あたりから長泉寺山を通過して越前市との境界付近まで続く鯖江断層は, 江戸末期の頃から鯖江の交通や文化の発展ととても関係が深いとされています。そして湧水が直線的に配列して

「浅水」「水落」「長泉寺」「清水」「舟津」などの水に関係する地名が並んでいます。河岸段丘と活断層の地形と旧道境界の発展を理解するために, 湧水ポイントを発見したり屋敷や言い伝えを探したりしました。



学校近くにある舟津神社では, 古来湧水があったとされています。断層崖が背景にそびえてとても雰囲気の良い神社です。

断層沿いに数ヶ所湧水地点があり, pH, 電気伝導度, そして水温を測りながら進みました。前日までの大雨が影響したためか, 段丘からの湧水と断層面を伝う湧水ではあまり大きな差はありませんでした。今後時期をずらすなど, 何度か計測をすることで何か変化をとらえることができるかもしれないと田中先生より助言いただきました。



現在は泉源の多くは枯渇し失われてしまっているけれど, 残ったものについては断層と関連して, またこの地域の歴史的遺産としても是非とも残していく必要があると学びました。

生徒国際イノベーションフォーラム 2020@online に参加

School for 2030

～いっしょに創るラミライの学び～

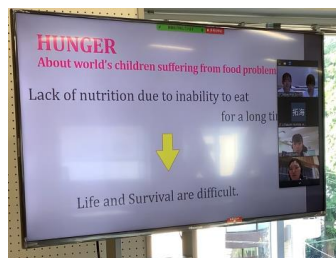
8月11日(火)12日(水)二日間にわたり、生徒国際イノベーションフォーラム 2020@online (ISIF2020) が開催され、世界各国からのべ約500名が参加しました。本校からは犬塚舞桜さん(2年)、漆崎唯さん(2年)が参加し、堂々と英語で実践報告をしました。このフォーラムに参加することが決まってから、犬塚さんと漆崎さんは昼食をALTのアン先生と一緒に英語でのコミュニケーションの練習をしたり、7月の県内での活動報告会にも英語で発表したりするなど、入念な準備を進めてきました。



今年は「学校のWell-being(よりよいあり方)」をテーマに、中高生を中心に、教師や研究者、大学生、教育行政、企業、NPOなどが平等に語り合いました。海外も含めた各学校の実践や教育活動、そこで感じる生徒や教師の「ホンネ」を持ちよりながら、新しい学校の「カタチ」を描き出していきました。

1日目：英語での実践報告／環境学習の実態交流

1日目、国内外からの参加者の顔がいっぱいに並んだ画面を前に、かなり緊張気味の二人でしたが任意に振り分けられた少人数のグループになってからは、積極的に英語で学校紹介と活動報告を行いました。



学校再開後の総合的な探究の時間で「SDGs」について学び、特に「貧困のない社会の実現」に興味をもった二人は、学校に通えない子供たちを救うための方策や食糧問題を少しでも解消するための方法を発表しました。



自分たちの発表を終えて、次はワークショップが始まりました。彼女たちは「環境」がテーマのグループで、学校の現状を分析し、未来の学校へのアプローチを考えました。福島大学生がファシリテーターとなり、福島県ふたば未来学園高等学校の生徒、福井大学附属義務教育学校の生徒、熊本市立北部中学校の野口哲先生と一緒に、環境教育の現状と今後について話し合いました。鯖江高校ではあまり環境教育は行われていないと報告しつつ、ごみ問題について話題提起しました。鯖江市と他地域のゴミの分別の違いからゴミ問題全般に話が広がり、海洋ごみやプラスチックごみについての議論も深めていきました。

2日目：今後の環境学習について考える

2日目、オープニングで1日目の交流の概要が英語で行われたあと、1日目のメンバーで今後の環境学習について具体的な方策を話し合いました。

漆崎さんたちは、王山古墳をあげながら環境保持にはふれあう機会を増やしていくべきではないかと提案しました。その発言をうけ環境保持に関する学習は「なぜそれを守るべきなのか」を考えていくことで、「地域

「鯖江市の企業との交流会」が行われました

働く意義や社会貢献、目指す社会の実現に向けた課題を学ぶ

8月17日(月)、本校の探究科1年生を対象に、「鯖江市の企業との交流会」が実施されました。本校は2019年度に文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に指定され(3年間)、鯖江市と鯖江商工会議所と相互連携協定を締結しています。今回は、鯖江商工会議所の方々にご協力いただき、鯖江市内の5つの企業との交流会を鯖江商工会議所にて開催しました。

●交流企業(五十音順)

(株) シャルマン (株) 白崎コーポレーション (株) フクオカラシ
(株) ポストクラブ (株) ヨシケイ福井

交流会では、SDGsを意識した活動、優れた技術、海外展開している企業にお勤めの方々から直にお話を伺うことで、働く意義や社会貢献、目指す社会の実現に向けた課題について学び、今後の探究活動の課題設定に活かしていきます。今回は、福井新聞社、福井テレビ、FBC、丹南ケーブルテレビの方々取材に来ていただきました。

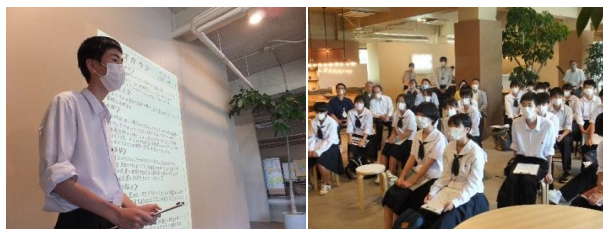
交流

生徒は5つのグループに分かれ、1人2社と交流しました。事前の「探究」の授業で、交流する企業についてホームページ等で下調べを行いました。企業の方々から直にお話を伺うことで、仕事に対する熱意やこだわりを実感できたようでした。



レポート作成と発表

交流した企業のうち、1社のレポートを作成し、企業の方々の前で発表しました。生徒は少し緊張した様子でしたが、交流していない企業の発表も聞くことで、身近な所に日本や世界に誇る高い技術をもった企業が数多くあり、どの企業も人や社会のために仕事をしているということを感じ取ったようでした。



【生徒の感想より】

- ★シャルマンさんから「エクセレンスチタン」を開発するのに10年かかったと聞き、眼鏡フレームのようなあまり気にしない部分にも技術が詰まっていた、たくさんの人の失敗や努力があることを知った。
- ★白崎コーポレーションさんから環境に配慮した製品づくりを目指していると伺い、改めて自分の行動を振り返り、意味のある行動をしたいと感じた。
- ★フクオカラシさんの「1つのネジにも、たくさんの人の繋がりがあがる」という言葉がとても印象に残り、どんな仕事も誰かに支えられ、誰かの役に立っていると感じた。
- ★ポストクラブさんの眼鏡のデザインに対する熱意はとて強く、海外の人にも鯖江の眼鏡が誇れるように、目標や目的をもって仕事をしていることに感銘を受けた。
- ★ヨシケイ福井さんのお客様を第一に考え、どんな日でも食材を届けるという強い思いと、SDGsの取組みの一つである女性が働きやすい会社と地域づくりの思いが伝わってきた。

「ふるさと福井の未来を一緒に考えよう」

理想の福井県の将来像を目指し、自分にできることを考える

10月30日(金)、本校の探究科1年生を対象に、福井県出前講座を実施しました。未来戦略課より岩井さんと伊藤さんが来校され、福井県長期ビジョンについての話と理想の福井を実現していくためのワークショップをしてくださいました。探究科の生徒は、20年後の福井県がどうなると予想されているかを学ぶとともに、これから自分ができることは何かをグループで考える活動を行いました。



「福井県長期ビジョン」を知る

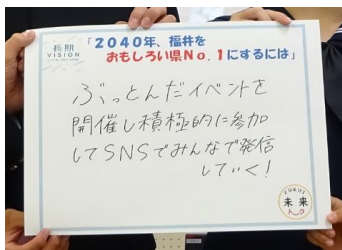
「20年後の福井県はどうなっていると思いますか？」

講座の前半は、20年後に福井県の人口はどうかという試算データを見て、人口減少の構造について学びました。また、医療の充実によって長寿化がさらに進むため、人生100年のライフデザインが必要であるということでした。そして、2040年に福井県が目指す姿をまとめた「福井県長期ビジョン」と、具体的な政策・施策について説明を聞きました。岩井さんの、「1000年を超える歴史と文化を誇りに思い、新幹線開通や技術の状況変化をどう生かしていくか。プロジェクトはすでに始まっているし、20年後30代になっている皆さんがどうしたいと考え、どう行動するかにかかっている」という言葉が印象的でした。

ワークショップ

講座の後半は、ワークショップを行いました。

一人一人が「福井県の課題」「理想の福井県」「自分ができること」を付箋に書き出し、グループで協力して意見をまとめ、模造紙に構造化して発表しました。グループ発表の中には「開発ばかりに目を向けず、今ある福井の良さを生かし継承していくことも重要だ」という意見が出ました。伊藤さんからは「福井県の課題を考えた時にだれにとっての課題かを意識することで、理想の福井県像や実現にむけての取組みも変わる」という助言をいただきました。今回の講座を受講して、今後課題研究テーマを設定する上で、大変重要な視点を得ることができました。



【生徒の感想より】

- ★福井県の実態や今取り組もうとしていることを知ることができました。自分が知らないところで福井がハイテクになっていたことや人口減少の深刻さを知り、とても勉強になった。
- ★福井は目立たない、地味、人口も減少している、そんなイメージをもっていました。けれど、今日の話聞いてガラッと変わりました。魅力ある県にしようと2040年に向けての大きな長期ビジョンを立て、新幹線開通をチャンスにさまざまなプランやイベントをたくさんの人が協力して行っていることに驚きました。
- ★これから自分たちが住みやすい県にしていくために、今何ができるかを考えることができました。身近すぎて気づかなかったことに気づく、いい機会となりました。
- ★グループで考えた理想の福井の中に“自然”というキーワードがあったので、いつまでも環境のよい福井であるために、私はゴミ拾いなどのボランティアに参加していきたいと思いました。

「1 学年普通科 福井新聞社記者による特別授業」

伝えるための文章の書き方、インタビューの仕方を学ぶ



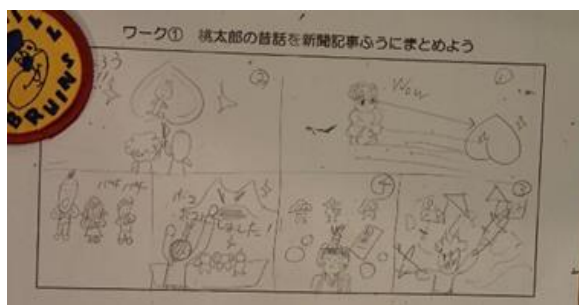
10月30日(金)、本校第一体育館にて普通科1年生約220名を対象に、「福井新聞社記者による特別授業」を実施しました。「総合的な探究の時間」では、今後新聞記事づくりに取り組む計画をたてており、今回は福井新聞社より、藪内弘昌氏と徳島康彦氏をお招きし、読者に伝えるための効果的な文章の書き方や、インタビューの方法を直接学びました。

授業の主な内容



特別授業は、説明とワークショップを織り交ぜながら展開されました。まず、その日の福井新聞が生徒全員に1部ずつ配付され、思いのままにめくることから始まりました。情報を得る手段としての新聞の信頼度やその使命に関する話があり、その後、手元にある新聞を使いながら、新聞の効率的な読み方の説明がありました。新聞記事は「結論→概要→詳細」という構造をしているという指摘をふまえ、記事の特徴を学んだ後、最初のワークショップ「桃太郎の昔話を新聞記事ふうにとまとめよう」に取り組みました。この活動のポイントは、5W1Hを意識して書くことです。すべての観点を確認することはできても、新聞記事ふうに見出し、リード(前文)をつけることになかなか苦労していたようでした。中にはマンガ風にとまとめようようなユニークな記事を作った生徒もいました。

次は、取材の際のポイントについて学びました。特に、5W1Hを具体的に聞き出す必要性について強調されていました。そして、2回目のワークショップ「突撃、隣の晩ご飯!」に挑戦しました。取材のポイントに基づきながら隣同士で3分間ずつ取材し合い、その取材メモをもとに10分間で記事を書きました。取材内容が身近なことなのでお互いに楽しそうに情報提供をしていましたが、制限時間内に記事を書きあげることは難しかったようです。ワークショップの途中で、講師の方から助言をいただきながら取り組んでいる様子が印象的でした。



生徒の感想

★新聞には様々な工夫がされていることに驚きました。自分で実際に記事作りをやってみると結構難しく、これを毎日やっている新聞編集の人たちはすごいと思いました。

★桃太郎の昔話を新聞記事のようにまとめるのは思っていたより難しかったです。ストーリーは知っているけれど、いざ新聞記事風になると全然書けませんでした。

★隣の人に昨日の夜ご飯について質問するときに、「5W1H」を意識して取材することができてよかったと思う。食べた感想やどんな状況で何をたべたのかに関してしっかりメモを取ることができた。相手に”Yes “,” No” だけで答えられるような質問を避けることができた。



「夢を育て未来を築く教室（ふるさと先生）」

地域課題のを見つけ方と鯖江市の活性化について

11月10日(火)、本校の探究科1年生を対象に、夢を育て未来を築く教室（ふるさと先生）を実施しました。伊藤忠商事株式会社の名誉理事である小林栄三先生（三方上中郡若狭町のご出身）に講師としてお越しいただき、「地域課題のを見つけ方と鯖江市の活性化について」というテーマで講演をしていただきました。

講演

はじめに、「今回の講演を新しい気付きの機会として欲しい」という小林先生の「ふるさと先生」への思いを聞かせていただきました。そして、100年前の人類が想像した100年後の未来が現代で実現しているものが多く、夢をもつことの大切さを教えていただきました。過去25年を振り返ると、今後25年も世界は物凄い速さで変化していくことが予想され、人口減少やシンギュラリティ(※1)など、現状と近未来に目を向け、様々なことに対して好奇心と問題意識をもつことが大切であると学びました。また、物事は一人では解決できないため、鯖江市をより良くしていくためには、地域や仲間と協働して知恵を出し合い、鯖江市の良さをもっとPRしていく必要があると教わりました。最後に、探究科の生徒に向けてエールをいただきました。



質疑応答



講演後の質疑応答では、探究科の生徒から小林先生に質問をさせていただきました。それぞれの質問に対する回答とあわせ、「自分の強みと情熱をもち、人間力を高めていく」「地域課題を見つけるためには、鯖江市の良い点と悪い点の両方に目を向け、能動的に行動する」「学ぶスキルを上げるためには、まずは人の話を素直に聞いて受け入れる」などの助言をいただき、これからの社会で求められることは何か、そのために何を学んでいくべきかを一人ひとりが考えを深めました。



生徒の感想

- ★何事も体、頭、心の健康を大切に、当たり前なことを当たり前になすことが大切だと分かりました。
- ★多様な価値観を理解することや、周囲の人々へ感謝するといった人間力を高めていきたいと思いました。
- ★鯖江市の活性化には能動的な対応が必要であり、長期的なプランを考えながら周囲と協働して取り組みたいと感じました。
- ★自分の強みを伸ばしながら、弱みは周囲と共に補っていききたいと思いました。
- ★成功の反対は「何もしないこと」という言葉が印象に残り、これからは失敗を恐れずに、色々なことに挑戦して経験を積んでいきたいです。



(※1) シンギュラリティ … 未来学上の概念であり、人工知能 (AI) 自身の「自己フィードバックで改良、高度化した技術や知能」が、「人類に代わって文明の進歩の主役」になる時点の事である。(Wikipedia)

1 学年探究科 大学教授による特別講義

課題研究における良い「問い」とは？ について学ぶ

11月20日(金)、探究科1年生を対象に、大学教授による特別講義を実施しました。仁愛大学の西出和彦教授に講師としてお越しいただき、2年次から取り組む課題研究を見据え、「課題研究における良い『問い』とは？」というテーマで講義をしていただきました。

そもそも研究とは？

はじめに、研究とは、「まだ誰も解いたことのない問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得させるプロセス」であるということを学びました。そして、誰も解いたことのない問いに挑戦するからこそ、「課題研究」は「調べ学習」とは異なるということでした。



良い「問い」とは？

4人グループに分かれ、「今、自分が知りたいこと」をできるだけたくさん疑問文で書き出し、それらが良い問いなのかを見極める活動を行いました。①「調べたら分かる問い」②「1年間で答えを出せない問い」③「1万円以内の資金で答えを出せない問い」④「実験方法や調べる方法が見いだせない問い」を除外していき、残った問いがもしかしたら課題研究の問いになるかもしれないというものでした。つまり、



課題研究における良い「問い」とは、

- ①「調べても答えが出ていない問い」
- ②「1年間で答えが出せそうな問い」
- ③「お金がかからない問い」
- ④「答えるための方法が見える問い」

であることを学びました。研究と聞くと難しそうなイメージをもってしまうがちですが、意外と身近な所に問いは存在し、何事も興味をもつことが大切であると教わりました。

また、「C i N i i (サイニイ)」と「J-STAGE」を、先行研究を調べるツールとして紹介していただきました。自分が立てた「問い」について、「何が分かっている、何が分かっているのか」を把握するとともに、先行研究を批判的に読み解くことの大切さを教えていただきました。



生徒の感想

- ★グループの中でたくさんの問いが出ましたが、「調べても分からない」「1年間で答えが出せる」「1万円以内の資金で答えられる」「調べる方法が見いだせる」といった問いが良いということが分かりました。
- ★今まで課題研究とはどんなものなのか分からなかったのですが、今日の講義を聞いてイメージが湧きました。
- ★未知の問いについて研究できるということは、とても楽しそうだなと思いました。良い問いを見つけるために、何事にも「ホンマか？」と疑問をもって、今から考えていきたいです。
- ★この世には本当にたくさんの疑問があり、問いが無限に出てくると感じました。
- ★「まだ誰も解いたことのない問い」と聞くとなかなか思い浮かばないですが、身近な所に気を配ってみると、いろいろな問いが出てくると思いました。まずは、様々なことに興味をもって過ごしていきたいです。
- ★自分の興味のある分野の未知の問いについて、全力で答えを探究し、みんなを説得させていきたいです。
- ★これからの社会で求められる問題解決能力を、課題研究を通して鍛えていきたいと思いました。

2年生 SDGs 課題解決探る

令和2年11月20日(金)、2年生の総合的な探究の時間において、SDGsに関する研究成果を発表する授業が行われました。

コメンテーターとして鯖江市より齋藤邦彦氏、服部聡美氏、さばえSDGs推進センターより関本光浩氏、仲倉由紀氏、4名の方にお越しいただき指導・助言をいただきました。

世界の問題点を調査

各クラス5人前後のグループに分かれ、6、7月にはそれぞれのグループが世界で発生している問題点について調査しました。

教育や環境・貧困など、世界中の様々な現状を調べ、その中から各グループ一つの課題を選び、討論を重ね解決策を探ってきました。

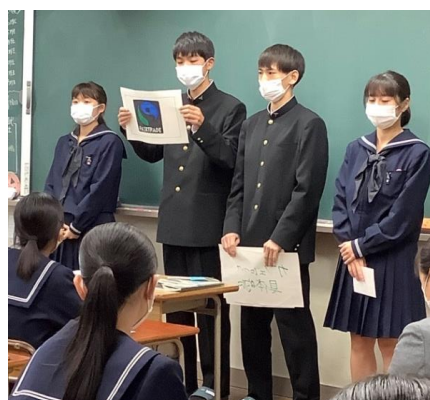
途上国の飢餓問題について発表したグループは、日本にいても解決できる方法として募金やボランティア活動への参加、フードロスの削減を提案しました。

世界の医療格差について発表したグループは、途上国での医療人材育成の重要性を訴えました。

コメンテーターの先生方からは「勉強したことを周囲に広げ、自分でもやってみることが大事」など、多くのアドバイスをいただきました。

「電気をこまめに消す」「詰め替え可能なボトルやカップを使う」「身の回りで差別が起きたときには疑問を抱けるようにする」など、一人ひとりの日々の意識向上がSDGs17の

各グループ研究成果を発表



ゴールに向かっていくことを探究の授業時間以外でも心に強く残り、世界の未来は自分たちが変えていく！生徒の新たな決意が各クラスから溢れ出ていたようです。

暮らしの中のSDGs



生徒の感想より

SDGsについて調べなかったら、世界の現状を知ることはできなかった。さらに深く調べ、何か自分でもできたらいいと思えた。

「2030SDGs」カードゲーム体験

さばえ SDGs 推進センターで、教員も探究！

11月25日(水)夜、今年9月めがね会館に開所した「さばえ SDGs 推進センター」で本校教員の9名が3時間におよぶSDGs勉強会をしました。「生徒とともに探究する先生方にSDGsについて、またその理念に賛同し取り組む鯖江市をはじめとしたさまざまな団体について知る機会を」と今回センターの方々が特別に学ぶ機会を提供してくださいました。コロナ感染拡大防止に配慮し、体験予定人数は大幅に縮小されましたが、「2030 SDGs」の公認ファシリテーター資格をもつ榎原秀典さん(エコネットさばえ)を講師に迎え、鯖江市役所の方々と一緒に勉強しました。



アクションが世界を変える

「2030 SDGs」は、SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するゲームです。与えられたお金と時間を使ってプロジェクトを行うことで、最終的にゴールを達成するというものです。さまざまな価値観や違う目標をもつ人がいる世界で、「自分たちのゴール」と「世界のゴール」を目指します。ホワイトボードには3色のマグネットが3つずつ貼り付けられ、そのときの世界の状況を表しています。青は経済、緑は環境、黄は社会を意味します。各プロジェクトは、実行できる世界の状況が決まっており、実行すると3色で表される世界の状況メーターも変化します。



前半は、自分のチームのゴールを達成するためにどのグループも必死な様子でした。ホワイトボードは青いマグネットがずらりと並び、環境や社会のマグネットが1つもない瞬間もありました。前半が終わった時点で、経済は良好だが、環境と社会は一層の努力を要するという状況でした。また、自分たちのゴールを達成できたチームは10チーム中7チームでした。

ファシリテーターの榎原さんから、私たちのプロジェクトによって作られた2025年の世界の状況について説明があり、後半が始まりました。最終的に私たちの作った2030年の世界はSDGs達成率100%の良好な世界にできたようです。しかし初めて会う方が多い状況だったら、こんなにスムーズにいかなかったかもしれません。



体験を通して感じたこと

ゲームの後は振り返りをしました。自分たちのゴールを達成した後ようやく(環境や社会など)が見られるようになったという気づきや、世界状況の視覚化の大切さ、人との関わりでゴールを達成できたという感想が出されました。そして、榎原さんからゲームと現実社会のつながりや、SDGsが大切にしていること、環境活動についての話を聞きました。

このゲームに参加してSDGsの認識を深められただけでなく、新しい出会いもありました。未来に対し、多くの人間が真剣に社会問題に向き合おうとし、具体的な活動で少しずつ世界の何かを変えているということを感じました。今から私にできること・・・それを考えられた充実した3時間でした。さばえ SDGs 推進センターの方々、お声がけいただきありがとうございました。

めがね会館を出ると、美しい星空が見え、明日からもがんばろうと気持ちを新たにしました。

1 学年探究科 研究手法を学ぶ

12月4日(金)総合的な探究の時間に、1学年探究科では仁愛大学より西出和彦教授、江南健志准教授に講師としてお越しいただきました。今回は文系講座と理系講座に分かれ、課題研究における研究手法について学びました。

理系：西出先生 “先行研究を徹底的に調べる”



理系生徒22名は視聴覚室で、西出先生の講義を受けました。はじめに、前回(11月20日)の講義の内容を振り返り、グループで出し合った「問い」が良い「問い」なのかを考えました。次に、

研究手法は主に4つあり、

①実験・観察 ②調査

③文献研究(文献レビュー) ④事例研究(ケーススタディ)である

ということを知りました。そして、学問領域(自然科学や人文・社会科学)

によって研究手法には特徴があり、研究手法を手に入れるためには、先行研究を徹底的に調べ(調べ学習)、目的に合った手法を探ることが大切であると教わりました。また、2年次から取り組む課題研究の過程(課題設定→先行研究→仮説立案→研究計画→観察・実験→結果の考察→発表・論文)とゴール(レポートの骨格)を確認しました。中でも特に「課題設定」が最も重要かつ大変なものであり、先行研究を批判的にじっくりと時間をかけて読み解き、「問い」を手を負える小さなものに絞っていくことの大切さを学びました。



文系：江南先生 “社会科学の考え方”

文系生徒16名は1-1教室で、江南先生の「社会科学の考え方」の講義を受けました。江南先生は地域社会学や環境社会学が専門で、フィールドワークによる調査をされています。自己紹介の後、理系(自然科学)と文系(社会科学・人文科学)の考え方や研究手法について、社会学以外にもさまざまな学問について話をされましたが、実は基本的に違いはないということでした。しかし研究上のアプローチの違いがあり、「物事をどう捉えるか」によって変わってくるところが文系の研究の面白さであり難しさでもあるということでした。そして、具体的な場面を想定して『実証主義』と『解釈主義』について説明してくださいました。対象者との関係性が調査では重要で、調査結果の捉え方にも関わってくるという話でした。少し難しい内容でしたが、生徒たちは真剣に聴き、先生からの質問には緊張しながらもしっかり答えしていました。

生徒の感想

- ★先行研究を批判的に見ていくことで、課題研究のテーマや研究手法のヒントを見つける手がかりになるということが分かりました。
- ★文系は、「解釈主義」といって質的な手法が使い、人の価値観や考え方によって研究結果が変わり、一方で理系は、「実証主義」であるため、量的な手法によって結果が一つに導き出されることが分かりました。
- ★研究手法を探すためには、先行研究を徹底的に調べることが大切であることが分かりました。先行研究における実験方法を活かして、自ら考えた工夫した実験を行えるように、考える力を育てていきたいです。
- ★文系の研究とは、物理的なものではなく、人間社会のような目に見えない事象に対する課題が多いことが分かりました。そのため、人間の感情と、相手との信頼関係を考慮することが大切だと感じました。
- ★良い研究をするためには、ある程度、結果までの道筋が分かるような課題設定が大切だと実感しました。また、レポートを作成する際には、実験結果だけでなく、予想や考察、今後の課題などもまとめる必要があることが分かりました。

探究科「2030 SDGs」カードゲーム体験



自分たちの行動が世界を変えていく・・・

12月14日(月)午前、総合的な探究の学習の特別授業として、探究科生徒38名がSDGsについて学習しました。「エコネットさばえ」の榎原秀典さんをファシリテーターとしてお迎えし、カードゲーム「2030 SDGs」の体験を通して、SDGsと日々の生活とのつながりについて学び、明日からできる一歩について考える機会をもちました。



探究科がつくった2030年の世界

今回の「2030 SDGs」では13チームに分かれ、それぞれのチームが違う価値観や達成目標をもって、持っているお金と時間を使ってプロジェクトを行い「自分のゴール」と「世界のゴール」の達成を目指しました。架空世界の経済・環境・社会の状況を表す3色のマグネットが、各チームが実行していくプロジェクトによって、刻一刻と変わっていきます。前半9分間、後半12分間でのゲームで、生徒たちはどのような2030年をつくりあげたのでしょうか？



前半を終えた時点で、経済17・環境2・社会7。榎原さんから「経済活動は絶好調！でも環境破壊が進んで、災害もお決まりのイベントになっちゃっているかもしれない。社会は今後よくなる兆しが見られるものの、まだ差別で傷ついている人がいる状態だね」という解説をいただきました。自分のゴールを達成できたチームも3チームだけでした。



後半に入ると、チーム同士のやりとりが増えました。お金やプロジェクトのやりとりで積極的に交渉する姿が増えました。後半の12分間を終え、経済は17⇒22、環境は2⇒10、社会7⇒11になりました。自分のゴールを達成できたチームも11チームになりました。生徒がつくりあげた2030年の世界におけるSDGs達成率はなんと100%！良好な世界にできたようです。

生徒の感想

- ★今日のSDGsの学習を通して、貧困問題や環境問題など、地球のために少しでもできることを考えながら生活していきたいです。
- ★SDGsの取組みについて、他人事と考えるのではなく、私たちの子孫により良い世界を残していくために、小さな活動から参加してみたいと思いました。
- ★世界はつながっているので、私たちにできることは沢山あると思います。例えば、フェアトレード商品を買うようにすることで、発展途上国を助けたいです。
- ★食品ロスを減らすために、その日のうちに食べられるものは賞味期限が近いものを買うなど、小さなことから大きなことにつなげたいと思いました。
- ★ゴミ拾いやゴミの分別、木を植えるプロジェクトに参加するなど、小さな取組みを積み重ねていくことで、世界に良い影響を与えていきたいです。
- ★現代社会では、経済が発展し過ぎて環境や社会の状態があまり良くないので、経済・環境・社会のバランスを保つ必要があると感じました。

前市長と語る会 ～鯖江市の魅力発見～

鯖江で学ぶことに誇りを

2月12日(金)7限目、1年生総合的な探究の時間に「前市長と語る会」を開きました。牧野百男氏は、昨年10月まで16年間鯖江市長として活躍され、現在は国連の友 Asia-Pacific 特別顧問としてご活躍中です。今回、新年度から鯖江市をテーマとした探究活動に取り組む1年生に向けて鯖江市への理解を深めるきっかけにと、本校卒業生でもある牧野氏は市長時代に行った取組みなどを紹介してくださいました。コロナ感染防止に配慮し、視聴覚室には各クラスからの直接聴講希望者約30名が集まり、その他の生徒は教室でリモート視聴しました。



日本を面白くするイノベティブシティ第4位のまち



牧野氏はまず、世界的経済誌「Forbes JAPAN」に掲載されたイノベティブシティランキングを紹介し、鯖江市が全市町村1,718のうちの第4位であることを教えてくださいました。そして、鯖江の名産品や自然環境、産業について説明され、世界に誇れる技術力のあるまちだとおっしゃいました。また、学生連携、市民主役、IT・オープンデータの先進地としてのさまざまな取組みのなかで、とくにSDGs 5番の『ジェンダー平等実現』に向けた市の取組みについて語っていただきました。

講演を聴いて、1組の山田煌桜さんは「ジェンダー平等で気をつけていたこと」について質問しました。牧野氏は、日本の昔の男社会で培ったものを払拭していくのは難しいとしながらも、「男女が互いに尊重し、互いに分かり合う大切さを、諦めずに少しずつ意識されていくよう進めていくこと」だとお話しされました。そして、ものづくりを支える女性の力をもっともっと生かし、「鯖江モデル」として国内外に発信して行ってほしいとのエールをいただきました。



生徒の感想

- ★鯖江市に住んでいるのに知らないことばかりでした。鯖江市は世界との関わりがともあり、いろいろなボランティアもあったので、参加してみたいと思いました。
- ★ジェンダー平等というのはとても難しいと思いますが、牧野さんの取組みで女性のチャンスが広がっていることを知りました。鯖江から全国へ活動を広めていけたらいいなと思いました。
- ★眼鏡産業が活発なことは知っていたけれど、漆器産業や繊維産業も盛んだとは知りませんでした。また、たくさんの方が楽しめる行事がありました。女性中心のまちづくりもすごいなと思いました。



地域との協働による高等学校教育改革推進事業 最終年度にむけて

放課後には教員対象にも同様に講演され、全日制・定時制の教員が約1時間聴講しました。その場では、学校再編によって鯖江市では唯一の高校になった母校鯖江高校で働く教員に向けて、「もっと地域を連携して元気な鯖江を発信して欲しい」という願いを語り、「探究科や専門コースができたことで注目・期待されている状況を卒業生として誇らしく思っている」と述べられました。

文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の令和元年度指定校としての取組みもあと1年となりました。「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に、新年度はコロナに負けずに、教職員一丸となってより一層進めていきたいと考えています。

古典芸能を学ぶ ～人形浄瑠璃体験～



実際に触れて演じて、魅力を感じる

2月10日(水)6限目、選択音楽を受講する2年生が人形浄瑠璃について学習しました。「近松座」から大橋國利さんをはじめ7名をお招きしました。「近松座」は平成17年に鯖江市の有志の方々立ち上げた人形浄瑠璃座です。元禄文化を築いた近松門左衛門は、幼いころ鯖江に住んでいたという史実があり、文楽のまち鯖江として、古典芸能を多くの人に知っていただきたいと現在も活動をつづけていらっしやいます。コロナ禍と大雪の影響もあり実施が危ぶまれましたが、昨年引き続き、今年もご協力いただくことができました。

呼吸を合わせる



人形浄瑠璃は、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。太夫と三味線は、どちらが指揮者というわけでもなく、お互いの呼吸を合わせて進めていきます。

太夫役は4名の男子生徒。情景や感情を三味線の音色に合わせて、情感たっぷりに語っていきます。台本には音階や強弱などの微妙な違いが記号で書き込まれています。記号の1つである「サワリ」は、一番心をつかまれる聴かせどころを指していて、現代語にも残っています。太夫担当の生徒は、南和彦さんからさまざまな資料をいただきながら熱心に練習し、一人でも大きな声で堂々と語れるまでになりました。

三味線担当は6名の生徒。初めて触れた三味線に少しびくびくしながらも、栗山祐子さんから約20分間の指導を受け、太夫の語りにタイミングを合わせて撥で力強くつま弾けるようになりました。

人形遣いの担当の生徒は、3人グループに別れ順番に人形操作を学びました。人形は3人で1体を動かします。3人の息を合わせて、人間が動いているように見せなければなりません。胴部を支え、頭部と右手を操作する人。右手で人形の左手の操作する人。かがんだ姿勢で足を操作する人。生きているように操作できるまでには相当な練習が必要だと感じました。また、人形の構造の説明を教えてください、指やまぶたの動きの細かさに驚く生徒もいました。

今後、各担当で練習を重ね、6月に成果発表会をする予定です。

文楽を映像で見て知っているというレベルでなく、実際に声に出し、人形や三味線の重さを実感することを通じて、江戸時代の人々の生活をより深く理解することにつながっていきそうです。また、江戸文化への発展学習や、古文読解や人間の動きの研究、英語版の台本創作など、教科を横断した学習の可能性を感じる事ができた授業でした。



生徒の感想

★なかなか体験できない三味線を体験することができてとても楽しかったです。

★中学校の時、人形遣いの体験をしたことがありましたが、三味線は初めてでした。新しいことに挑戦できて楽しかったです。

★三味線の体験をしました。普段はギターを弾いているので、ある程度はできるかと思いましたが、バイオリンのようにフレットが打っていないので正確な音を探すのがとても難しかったです。

★太夫は声だけで役を表現しなくてはならず、声の出し方や話し方、長さなど、さまざまな工夫が必要であることが分かりました。練習を重ねて、よりよい表現ができるようになりたいです。発表会では緊張して早口にならないよう、ゆっくりと語れるように練習したいです。



民族楽器にチャレンジ at 鯖江高校

やってみよう！ 民族音楽



異文化理解と創作



雰囲気を表そうとしました。

もう一つのグループは、「物語にBGMをつけよう」と「アンクロン合奏に挑戦してみよう」という課題に取り組みました。物語にBGMをつける活動では、日ごろあまり耳にすることのない音色を用いて、朗読にBGMを合わせました。この



ことを覚えておいてほしい。」

これまでに手にしたことのない多くの楽器に触れることができる興奮だけでなく、創作活動にも挑戦することができるとても楽しい雰囲気を感じる授業でした。

生徒の感想

★森さんが持ってきてくださった楽器はどれも初めて見るもので、見たり触ったりするのがとても新鮮で楽しかったです。その中からお気に入りの楽器を見つけることができてよかったです。

★教科書で見ていた楽器以外にも多くの種類の楽器があり、それらを見て触ってみることで、楽器を演奏することの難しさや楽しさを知ることができました。竹、木、鉄、水など身近にあるもので作られた楽器が多く、吹奏楽やオーケストラで使われているフルート、オーボエ、バイオリンなども元々は民族楽器のような感じだったのかなあと思いました。

★楽器で意思疎通をしている民族の人はすごいと思いました。他にも民族楽器を調べてみたいと思いました。

★民族楽器は大きくて大胆な音が出るのだと思っていたので、やさしくてかわいらしい音を聴いたとき意外だなと思って面白かったです。ボウルをこすって音を出すシンキングボウルは、授業が終わってから挑戦しましたが、音を出すことができませんでした。森先生も5年かけて弾けるようになった楽器があるとお話されていたので、根気強く練習することがとても大切だと思いました。

2月17日(水)3限目、選択音楽を受講する1年生が世界各地の民族楽器について学習しました。講師として、民族楽器収集家であり、「轟音」というアマチュア演奏集団の一員でもある森眞一郎さんをお招きしました。コロナ禍と大雪の影響もあり実施が危ぶまれましたが、昨年に引き続き、今年もご協力いただくことができました。

まずは、20種類を超す楽器に触れた後、楽器紹介と音の出し方について説明を聞きました。その後、2グループに分かれてそれぞれ別の創作活動に挑戦しました。一つのグループは、「楽器でおしゃべりをしてみよう」と「祈りを表現してみよう」という課題に取り組みました。おしゃべりする際には、他民族が言葉を使用せずに意思伝達に用いる楽器（バードコール、トーキングドラム、エクタル、クイーカ、モーニップ）のみで自分の好きなものを伝え合おうとしました。また、祈りを表現する活動では、金属製の楽器（オーシャンハープ、クロティール、シンキングボウル、アンティックシンバル、ガモも、カウベル、ハビドラム）の中から好きなものを選び、静寂な



活動には、バードコール、カリンバ、サウンドホース、スプリングドラム、レインスティック、オーシャンドラム、ブルロアー、ウィンドバンドが用意されていました。アンクロン合奏では、インドネシアの民族楽器を使って「きらきら星」を演奏しました。

授業のまとめとして、森先生は次のような言葉を生徒たちに贈りました。

「世界には色んな楽器があることを知ってもらいたい。そして、ひとつのことができるようになるには、こつこつと練習する必要がある。これらの



仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定書締結！

教育のより一層の充実を図る



2月26日（金）本校は仁愛大学と、高大連携・高大接続に関する協定を締結しました。協定により、来年度以降の探究活動指導や授業力向上のための改革を、これまで以上に充実させていくことができるようになります。

仁愛大学で行われた締結式で、田代俊孝学長は「高大接続改革は国の教育改革にとって重要な施策である」とした上で、「仁愛大学は地域に密着した大学であり、大学のもつ知見や知的財産を地域に還元していくことは使命である。地元の鯖江高校との交流推進を図り、高等教育の充実

に寄与できることは大変うれしい」と挨拶されました。

また、福嶋洋之校長は「社会の持続的な発展を支え、生きる力を育成していくことは、高校・大学両者の喫緊の課題」であるとし、「新たに始めた本校の探究活動に対して、大学の先生方のご指導をいただき、また、教員の授業力向上やICTの活用等さまざまな分野でのご支援をいただけると期待でき大変心強い」

「鯖江高校の生徒と仁愛大学の学生、教職員相互の交流によって、教育の質的転換と生徒や学生の着実な成長につなげたい」と語りました。

鯖江高校は、文部科学省所管の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業実践校」の指定を受けたことを契機とし、令和元年6月に自治体・産業界との相互連携協定を締結し、地域との協働を柱に、普通科専門コース・探究科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に向けたカリキュラムの開発を進めています。今回新た



協定書に署名する田代学長と福嶋校長



締結された高大連携に関する協定書



に、仁愛大学との連携協定を結んだことにより、行政・経済界・研究機関の全面的サポートを受けられるようになり、地域に根ざした学校づくりの推進と、将来、地域で活躍する市民の育成を目指すための環境が整ったといえます。この環境をどのように活用していくか、具体的な活動内容は今後決めていきますが、私たち教員の手腕が問われます。

2年生 SDGs 啓発ポスター発表

令和3年3月16日(火)、2年生の総合的な探究の時間において、SDGsに関する啓発ポスターを発表する授業が行われました。

コメンテーターとして鯖江市より齋藤邦彦氏、服部聡美氏、さばえSDGs推進センターより仲倉由紀氏、川口サマンサ氏、4名の方にお越しいただき指導・助言をいただきました。

誰一人取り残さない

各クラス4人前後のグループに分かれ、それぞれのグループが、世界や国内、また福井県内で発生している問題点について調査し議論を重ね、一枚の啓発ポスターに仕上げました。

スクリーンにポスターを映しだし、発表者は全員前に出て、まずSDGsの目標の何番の啓発ポスターを作成したかを発表しました。貧困・飢餓・教育の質や男女格差、貧富格差や気候変動、17の目標からそれぞれのグループが様々な問題をテーマに選びました。

選ぶ目標番号も違えば、生徒一人ひとりの観点も様々で、一年間SDGsを学んできた成果発表を兼ねた、とても幅のある奥行きを感じる発表会でした。

SDGsが掲げる“誰一人取り残さない”世界の実現のために、自分たちができること、自分たちが日々意識すべきことを、ポスターをつくりながら、そしてお互いの発表を聞きながら学んでいたようです。

ポスター作りは、文字やイラスト、写真の配置で随分と印象が変わり、キャッチコピーが一目見た人の興味を惹くなど、色々な要素が詰まっていることも学習できたようです。

発表者は、工夫した点やSDGsについて学んだことなどを、聞き手に伝わるよう端的に、大きな声を意識して発表していました。聞き手の方も、しっかりと発表者の目を見て、共感しながら真剣に聞いていました。発表の仕方だけでなく、発表者が発表し易い聞き方も、とても向上していました。



最後に、SDGs推進センター仲倉副所長より講評をいただき、「4年後の、2025年大阪万博のテーマはSDGs、ここにいる皆さんが、ちょうど社会にでたり社会にでる準備をする時期で、自分たちの生活をしていく上でSDGsが大切になってくると思う。是非その時に、高校で学んだことを思い出してほしい、今日の授業も含めて高校で学んだことを大事にしてほしい。」エールをいただきました。

2025年大阪万博：テーマはSDGs

生徒の感想より

- ★1年間SDGsについて学んできて、多くの課題がまだまだ残っていることに気付きました。私たち一人ひとりができることを考えて、行動していくことが大切なんだと感じました。
- ★様々な問題が絡み合っていると思いました。自分にできることから行動していきたいです。



ジェンダーに関する特別授業

令和3年3月18日(木)、探究科1年生を対象に「ジェンダーに関する特別授業」を実施しました。さばえSDGs推進センターより、川口サマンサ氏に講師としてお越しいただきました。サマンサさんはカナダ出身で、日本の文化にあこがれ10年前に東京へ、国連の友Asia-Pacificにてボランティアスタッフとして活躍していたことをきっかけに、昨年10月から鯖江市に移住し、SDGsの啓発活動などに取り組んでおられます。

まず「ジェンダーギャップ指数」とは、経済・政治・教育・

#Me Too フェミニスト運

健康の4分野から男女格差を測る指数で、日本はランキング対象国153ヶ国のうち121位と、とても低い水準であることを説明されました。

世界ではフェミニスト運動が活発に行われ、日本でも行われています。サマンサさんの地元トロントでのフェミニスト運動や以前行われた運動の写真をスクリーンに映し、声をあげることによって世界が変わっている、歴史を動かしていることを学びました。



セクシャルハラスメントを受けたことを告発や共有をする際に、#Me Too(ハッシュタグミートゥー)このハッシュタグを使い、SNS上での抗議活動も活発になってきているそうです。

日本や各国で、まだまだ根強い男尊女卑があるけれど、女性の地位を上げるというより皆んなの地位を平等にするという考え方が大切で、レディーファーストという言葉も今は男女の不平等を表している言葉であることをお話されました。

世界では、ジェンダー差別の他、人種差別や宗教差別、身分差別や障がい差別などたくさんの差別問題があり、セクハラや暴力、ネットでの誹謗中傷、そして日本の政治家は男性の占める割合が多く偏った政策になりがちであることなど、差別によって起こっている問題を、生徒一人ひとりが痛感していた様子でした。

LGBTQIA+ 私たちにできること

そして、性の多様性を示す「LGBTQIA+」という言葉の説明を受けました。レズビアン

(Lesbian)・ゲイ(Gay)・バイセクシュアル(Bisexual)・トランスジェンダー(Transgender)・クエスチョニング(Questioning)とクィア(Queer)・インターセックス(Intersex)・アセクシュアル(Asexual)・+これらの他にも様々なセクシュアリティがある、ということでした。

最後に5~6人のグループに分かれ、男らしさとは？女らしさとは？意見を出し合うワークショップを行いました。

男らしさとは、声が低い・短髪・筋肉がある・ひげが濃い・字が汚い・肩幅が広い・意見をハキハキ言う・マッチョ・背が高い・力が強い・格好良い・我慢強い。女らしさとは、器用・化粧をする・スタイルが良い・お洒落・おしとやか・清潔・ロングヘア・料理が上手・明るい。などなど、それぞれのグループが発表しました。



声が低い女性もいれば、ロングヘアの男性もいる、列挙した全てが両性に当てはまり、男らしさや女らしさではなく、個性を尊重し、概念にとらわれず生きることが大切だと学びました。

多くの問題を抱えるこの世界で、私たちにできることは何か？サマンサさんより「今すぐできることがあります！それは意識を変えること！」シンプルな答えに生徒は目を見開いてました。この教室にいる一ひとりの意識が変われば鯖江高校が変わり、鯖江市が変わり、福井県が変わり、日本が変わり、そして世界が変わる。私たちは世界を変えることができる！とサマンサさんに背中をおしていた特別授業でした。



普通科1年生 新聞記事づくりと相互評価

令和3年3月18日(木)、普通科1年生の総合的な探究の時間において、これまでに各自で作成してきた新聞記事を仲間と読み合い、互いに評価する授業を行いました。

興味をもたせる記事づくり

普通科の生徒は、新聞記事の作成・発表を目標として、2学期より情報活用の方法などを学ぶ活動を行ってきました。

10月に福井新聞社の記者をお招きし、新聞記事づくりのための特別講演とワークショップを行いました。読み手を意識したわかりやすい構成や、インタビューのしかたなどを学びました。その後、各自で興味のあるテーマを設定し、新聞記事づくりをスタートしました。



新聞記事づくり

3学期に入り、インタビューによって得た情報や調べて分かった情報をもとに、新聞記事づくりに取り組みました。読み手にわかりやすく伝えるための工夫を凝らしながら各自で記事をまとめました。

情報を正しく伝えるために

新聞の読み合いではクラスの枠を解いて3～4人でグループを作り、まずは「アピールタイム」で作成者から読みどころを伝えました。その後、それぞれの新聞記事を5分程度で読んで、相互評価シートにコメントを書き込みました。全員分の記入が終わったら、その内容をグループ内で共有しました。



新聞記事の読み合い

- ★ インタビューなどの事前の準備からこんなに時間をかけて作るのがはじめてだった。
- ★ 他の人の記事を見るとレイアウトが全然違って面白かった。
- ★ 新聞記事づくりはけっこう大変だったが、自分の知らなかったことがたくさん分かったのが楽しかった。



オンラインによるインタビュー

テーマは自分の将来像を意識し、興味のある職業やその分野で活躍する人物から考えました。

テーマが決定した後、冬休み期間も利用して各自でインタビューを行って情報収集をしました。インタビューの依頼は基本的に自分でいき、依頼が難しい場合には鯖江市や商工会議所の方のご協力をいただきました。またコロナウィルス感染対策の影響などで対面による取材が難しい相手には、オンラインによるインタビューも行いました。



アピールタイム

さまざまなテーマがあり、また同じテーマでも切り口が異なっており、いろいろな発見があった交流会になったようです。相手の表現のいいところを認め合うことで、情報を正しく伝える手段などを学べる活動となりました。2年次ではこれまでの経験を活かして、より深い探究活動を行っていきます。

生徒の感想より

★ どうすれば読み手が読みやすいものになるかと考えながら作成することができた。他の人の新聞で自分の考えでは出せなかった考えもあったりしておもしろかった。

地域協働だより

HP: <http://www.sabae-h.ed.jp/>

1. 地域とつながる

Connected with the community

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 地域魅力化型



鯖江高校では、地域との結びつきをさらに強め、地域と協働する高校教育のモデル、鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築し、地域資源を活用した全科目・教科でのカリキュラム開発・授業実践を全国へ発信するよう、現在取り組んでいます。

地域と協働する事業とは…

- 生徒が地域の皆さんに協力いただきながら、地元に広く興味をもち理解を深め、そして
- 地域の伝統や文化を継承し、地域への愛着と誇りをもち、地域の未来を育てる市民
- 将来の地域コミュニティを支え、多様な価値観を共有し、チャレンジ精神を持つ市民
- 持続可能な地域社会の形成に向け、貢献意識をもち、自ら考え行動する市民



校野前鯖江市長と語る



クッキング部テレビ生出演



鯖江市の企業との交流会



自分たちが福井を好きになる!

2. 世界とつながる

Connected with the world

Have you heard of SDGs? SDGs って知っていますか?

SDGs とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択され、国連加盟 193 カ国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。日本でも「アクションプラン」が策定され、2018 年には鯖江市が 31 未来都市の一つとして取り組みを進めています。今年度鯖江高校では、この SDGs の理解を深めていき、世界で何が起きているのか？自分たちに何が出来るのか？先生と生徒が一丸となって色々な探究活動に取り組みました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsを知る!



生徒国際イノベーションフォーラム2020!



先生も探究!

17の目標は世界共通で誰もが分かりやすいようにカラフルなアイコンで表されています



SDGs課題解決探る!



2030SDGsカードゲーム体験!

3. 未来につながる

Connected to the future

The future depends on what we do in the present. 未来は、今私たちが何を為すかにかかっている。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた様々な活動ができない状況となりました。色々な制限があるなかで、感染症予防対策を講じながら実施可能な活動を模索し、地域人材を活用した多くの活動を、地域の皆さんのご協力を得ながら実施することができました。



夏の特別授業～鯖江の断層を歩く

令和2年7月31日(金)株式会社田中地質コンサルタント 代表取締役田中謙次氏に、「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマにした夏の特別授業を実施していただきました。鯖江の断層と一緒に歩いていただく体験学習授業のなかで、地層や湧水について直接観察し詳しく説明を受けることでより知識が深まりました。



福井NIE 授業

令和2年10月30日(金)「福井新聞社記者による特別授業」を実施していただきました。

読者に伝えるための効果的な文章の書き方や、インタビューの方法を直接学びました。そして生徒同士で取材し合い、記事を書き上げるワークショップに挑みました。5W1Hを意識し講師の方に助言をいただきながら取り組む様子が印象的でした。

令和2年11月20日(金)仁愛大学の西出教授に「課題研究における良い『問い』とは？」というテーマで講義をしていただきました。研究とは、「まだ誰も解いたことのない問いを立て、証拠を集め、論理を組み立て、答えを示し、相手を納得させるプロセス」である。そして誰も解いたことのない問いに挑戦するからこそ「課題研究」は「調べ学習」とは異なる、ということでした。意外と身近な所に問いは存在し、何事にも興味をもつことが大切であると学びました。



大学教授による特別講義

令和3年2月26日(金) 仁愛大学と、高大連携・高大接続に関する協定を締結しました。鯖江高校の生徒と仁愛大学の学生、教職員相互の交流によって、教育の質的転換と生徒や学生の着実な成長につなぎたいと考えています。



仁愛大学との高大連携・接続協定書締結



夢を育て未来を築く教室



ふるさと先生



2030年の世界を創造する



“社会科学の考え方”を学ぶ



人形浄瑠璃体験

鯖江市役所
鯖江高校
鯖江商工会議所
同窓会
福井新聞社
地元小中学校

オールSABAE

NPO 法人

大学



「鯖江について」教員研修会

地域の方々、学生、保護者、民間企業、団体・機関等、幅広い方々の参加・協力のもと、地域全体で鯖江高校生の学びや成長を支えていただいています。全ての方々・ものごとくに心から感謝し、2021年度も持続可能な鯖江の発展に貢献していきたいと考えています！